
岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ

＜2018年度＞

2019年4月
岐阜県教育委員会

目 次

1	2018 年度の検討まとめについて	1
2	2018 年度の実組結果	1
	(1) 2019 年度入学実選抜に係る学科改編等について	2
	(2) 地域連携による活力ある高校づくり推進事業.....	4
	(3) 進学指導推進事業.....	13
	(4) スーパーグローバルハイスクール (県指定SGH) 事業.....	17
	(5) 理数教育フラッグシップハイスクール (FSH) 事業.....	17
	(6) スーパーハイスクールセッション (SSS)	18
	(7) 高等学校における演劇等ワークショップ事業.....	18
	(8) 専門高校地区検討委員会等について.....	19
3	2019 年度以降の実組内容と今後の方向性	20
	(1) ふるさと教育の推進.....	20
	(2) 進学指導推進事業 (継続)	23
	(3) 高等学校における演劇等ワークショップ事業 (拡充)	24
	(4) 今後の方向性について.....	24
4	2020 年度の入学実選抜制度の変更及び学科改編等について	27
	(1) 県立高等学校入学実選抜の変更について.....	27
	(2) 学科改編等について.....	29

資料編

1 2018年度の検討まとめについて

- 県教育委員会では、2016年3月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」を受け、以降、県立高校の活性化の方策について具体的な検討を進め、年度ごとに取組結果等を「検討まとめ」として取りまとめている。今回発表する「2018年度の検討まとめ」は、2018年度の実績と2019年度以降の実績及び検討課題を取りまとめるとともに、2020年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施する学科改編等について示すものである。

2 2018年度の実績結果

- 「平成28年度の実績まとめ」において、県立高校の活性化の基本方針として、高校の特性に応じた活性化の基本的な考え方を定め、具体的な活性化策を例示したものをグランドデザインとした。このグランドデザインに基づき、例えば、個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学から就職までを含めた多様な進路希望への対応、地域産業を担う人材育成、さらには多様な学習スタイルへの対応など、高校の特性に応じた活性化策を検討し、毎年度、具体的な取組として実行してきた。2018年度の実績結果は以下のようである。

<県立高校活性化の基本方針（グランドデザイン）>

	特性（進路状況）	活性化の基本的な考え方	具体的な活性化策（例）
普通科等	選抜性の高い大学への進学が多い	○ グローバルリーダーの育成 ○ 個別のより高度な学習ニーズへの対応 ○ 新大学入試制度や新学習指導要領を見据えた探究的な学習を積極的に推進 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成	◆ 高等教育機関の教育力を積極的に活用したより高度な学習機会の提供 ◆ 少人数による主体的・対話的で深い学びの推進 ◆ 進学重点型の単位制へ改編 ◆ 授業時間以外の補習体制の充実 ◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	いわゆる中堅進学校	○ 主体的に学習できる教育体制の構築 ○ 個別の進学希望へのきめ細やかな対応 ○ 大学合格実績の向上 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成	◆ 進学希望別（コース別）教育課程の編成 ◆ 進学重点型の単位制へ改編 ◆ 授業時間以外の補習体制の充実 ◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	進路先が多様	○ 多様な進路希望にきめ細かく対応 ○ 多様な生徒（中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒等）への対応 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成	◆ 進路実現型の単位制や総合学科へ改編 ◆ 昼間2部（午前・午後）、通信制（平日スクーリングタイプ）への改編 ◆ 「少人数コミュニケーション講座」の開設 ◆ デュアルシステムの導入・充実
総合学科			
専門学科	学科によって進路状況に違いがある	○ 本県の地域産業を担う人材を育成 ○ 少子化に伴う学校の小規模化への対応 ○ 産業構造の変化等による新たなニーズへの対応	◆ 地域産業やニーズに応じた学科の再編成や学科名称の変更 ◆ 柔軟な定員設定や類型（くくり）募集 ◆ 学校規模にあった学科改編 ◆ 複数の専門学科の併置校へ改編
定時制・通信制		○ 多様な生徒、多様な学習ニーズや学習スタイルへの対応	◆ 夜間定時制を多部制に改編（昼間部の新設） ◆ 全日制タイプの高校に改編

(1) 2019年度入学者選抜に係る学科改編等について (2018年4月発表)

学科改編等

○ 以下のように学科改編等を行った。

学校名	学科改編等の内容
岐 阜 北	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
羽 島 北	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
山 県	普通科ビジネスコースの募集停止 単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
揖 斐	普通科ビジネスコースの募集停止
大 垣 南	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
大 垣 西	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
郡 上 北	普通科ビジネスコースの募集停止 単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
郡 上	普通科に単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
	農業科の学科改編 (既存の2学科を園芸科学科、食品科学科、森林環境科学科の3学科に再編し、3学科を総合農業学群として募集) 農業科に単位制を導入 (単位制による全日制課程農業科)
	総合学科の募集停止
関	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
恵 那 南	総合学科の系列変更
益田清風	普通科に単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
	商業科の学科改編 (既存の2学科を再編し、ビジネス情報科を設置) 商業科に単位制を導入 (単位制による全日制課程商業科)
	総合学科の系列変更 (総合学科は従来から単位制)
斐 太	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
吉 城	普通科、理数科に単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科、理数科)

1 学級40人未満の入学定員の設定

- これまでの入学状況や今後の生徒減少期を見据え、2018年度入学者選抜から一部の高校において、1学級40人未満の定員設定を実施している。2019年度入学者選抜では、新たに5校で1学級40人未満の定員設定を行った。

※2018年度入学者選抜から：坂下（普通30人、生活文化30人、福祉30人）、
吉城（普通30人×3学級、理数30人）
※2019年度入学者選抜から：揖斐（普通30人×2学級、生活環境30人×2学級）、
瑞浪（普通35人×2学級、生活福祉35人×2学級）、
土岐紅陵（総合学科35人×3学級）
土岐商業（ビジネス35人×4学級、ビジネス情報35人）
恵那南（総合学科30人×2学級）

県外からの生徒募集

- 2018年度入学者選抜から、県外からも意欲の高い生徒が入学することで、生徒同士が切磋琢磨できるなどの教育効果を期待して、特色ある教育や部活動を行っている一部の高校について、県外からの生徒募集（以下、県外募集）を実施している。2019年度入学者選抜においても、同様の学校及び分野で県外募集を行った。また、県のHPや実施校のHPに、県外募集に関する専用のページを開設するなど工夫したほか、3回にわたる新聞広告については掲載時期により目的を明確にした別々のレイアウトや内容とするとともに、掲載エリアを隣接県に加えて関東圏にも拡大するなど、効果的な広報に努めた。

< 県外募集実施校（分野） >

加納（音楽）、不破（スポーツチャンバラ）、海津明誠（ヨット）、関有知（ライフル射撃）、八百津（ボート、カヌー）、東濃（ロボコン）、多治見工業（セラミック）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）、高山工業（建築インテリア）、飛騨神岡（ロボット）

< 県外募集による入学実績 >

※2018年度入学者選抜：1名<加納（音楽）>

※2019年度入学者選抜：4名<加納（音楽）、東濃（ロボコン）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）>

（２）地域連携による活力ある高校づくり推進事業

- 地域連携による活力ある高校づくり推進事業の19校においては、それぞれ学校関係者や市町関係者、地域の産業界代表等により構成される協議会を設置し、それぞれの地域の特性を高校活性化に生かす様々な提案や活発な議論を通じて、地域と一体となった活力ある高校づくりに関する様々な取組を実施してきた。
- 2016年度から事業を実施している10校（グループ１）については、こうした取組を始めてから３年を経過したため、2018年度を取りまとめの年度として位置付け、この検討まとめにおいては３年間を総括した報告とした。
- 2017年度から事業を実施している６校及び2018年度から事業を実施している専門高校３校（グループ２）については、この検討まとめにおいては2018年度の各高校の活性化に向けた取組の内容や、協議会等での提言・意見及び今後の方向性についてまとめた。
- これらの高校では、協議会を核とした、地元市町村や企業等と連携した取組を通して、例えば、地元企業でのデュアルシステムの構築や地元農産物を活用した新たな商品開発など、具体的な取組が進められた。また、こうした取組を通じて、地域において活躍の場を得た生徒がより主体的に自分の将来について考えるようになり、地元市役所への就職や大学進学等、希望する進路の実現につながるなどの成果があったと捉えている。
- また、地元中学校の卒業生が減少傾向にある中で、全般的にはこれらの学校への出願者数は安定しているものの、一部の高校では、活性化に向けた取組が直接的には出願者の増加に結び付いていない状況にある。このため、今後も地域人材の育成や地方創生の観点から、単独校としての更なる活性化策を地域一体となって推進する。
- さらに、こうした取組を学校ごとにさらに発展させ、子どもたちの将来の進路実現に向けた取組が充実するよう、学校と地域が協働して学校の運営に取り組む体制として、これらの高校全てをコミュニティ・スクールとし、地域連携による活力ある高校づくりを強化していくこととしている。

<グループ1>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※ は活性化協議会等で出された外部からの意見 ◇ は今後の方向性

不破高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:89/120 → H29:120/120 → H30:118/120 → H31:107/120)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○学校活性化プログラム（校内授業改善研修会）による自ら学ぶ意欲をもつ生徒の育成 ※本校の充実した少人数教育やそれによる高い就職率を外部にうまく発信できるとよい。 ※助言者である大学教員の力を借りて授業改善のみならず、生徒が抱える課題を解決できるとよい。 ○コミュニケーション能力育成のための演劇表現ワークショップの実施 ※社会ではコミュニケーション能力は重要であり、このような取組の成果を大いに期待している。 ※1年次のクラスづくりや人間関係づくりにより一層役立つよう時期を見極めつつ継続したい。	
地元市町からの主な支援：補助：スクールバス「不破高スクール線」の運行補助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○高校見学会や一日入学の開催、中学校開催の高校説明会への参加及び学校PRチラシの配布 ※活躍が目立つ女子生徒が多く進路実現していることも外部に積極的にアピールするとよい。 ※高校見学会に大変多数の参加があり、地元の中学校と連携を図りながら今後のPRを検討したい。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数減少の中で、事業実施前より出願者数が増加傾向にあるなど安定している。 ◇少人数教育の充実により、進路実現を果たした生徒が増えていることは大きな成果である。 ◇スポーツチャンバラ部や地域連携活動の活躍は新聞等でも報道され、地域に高校がより認知された。 ◇今後は学校の所在する地区に限らず、垂井町全体のまちづくり協議会ととの広い連携が課題である。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○演劇ワークショップや少人数コミュニケーション講座を中心とする少人数教育の充実 ・小規模な高校であることを生かした生徒の多様な個性に対応した教育をより一層拡大 ○高大連携事業による高い進路意識を育てるキャリア教育の展開 ・大学の授業の実体験などを通して、より広い学問への興味やより高い進路意識を育成	

郡上北高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:90/120 → H29:96/120 → H30:104/120 → H31:76/120)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○「奥美濃カレーで町おこし隊」や清流長良川あゆパークへ企画提案など地域行事への参画 ※開発した商品は完成度も高く、例えばふるさと納税の返礼品として検討してもよいのではないか。 ※企画への参加が目的であった活動が、地域に貢献するための活動へと生徒の意識が変容した。 ○中高一貫教育校の強みを生かした小・中・高校における連携の強化 ※出前授業や合同での研究授業の実施、生徒会活動や部活動などの連携が年々進んでいる。 ※今後は小学校も加え、小学校から高校までつながる白鳥地域を目指した取組としていきたい。	
地元市町からの主な支援：地域と一体となった各種行事によりキャリア教育を支援	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○「郡上北高地域とともに発展(KCD)プロジェクト」実践発表会などによる中学生等への情報発信 ※生徒が地域で活躍し評価されている様子や生き生きと活動した姿がよく伝わってきた。 ※地域連携の取組のすばらしさを白鳥地域全体にさらに広めていきたい。	
3年間の成果または評価	
◇昨年度までは出願者数が安定してしまものの、今年度は地元の中学卒業生数の減少の影響を受けた。 ◇生徒の活躍がテレビ報道など多方面で認められ、地域の方々から高い評価を得ることができた。 ◇中高連携の充実によって、日頃の授業改善に加え中高の指導の繋がりを意識できるようになった。 ◇地域の中で生徒一人一人が活躍できる場面をさらに増やしていくことが今後の課題である。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○「郡上北高地域とともに発展(KCD)プロジェクト」の継続・発展 ・清流長良川あゆパークへの企画提案など地域行事に参画を継続 ・地域活性化策を提案する「クエストエデュケーションプログラム」など地域キャリア教育の充実 ・連携型中学校とだけでなく地域の小学校から高校まで繋がる連携教育活動の強化	

<グループ1>

八百津高校 (第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H28:109/120 → H29:128/120 → H30:123/120 → H31:134/120)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○デュアルシステムによる企業実習の実施 ※デュアルシステムに対する理解が進み、希望して取り組む生徒が増加していることは評価できる。 ※この取組が地元企業や中学校、保護者にもっと伝わり広がるよう期待している。 ○新丸山ダム建設現場や杉原千畝記念館など地元施設の見学 ※地域の特色やよさを学ぶことで、生徒は将来の職業選択についても考えることができる。 ※地元に着目した行事であり、人道教育の観点からも今後も連携を図りながら続けてほしい。	
地元市町からの主な支援：部活動・生徒会活動の援助、地域交流活動の補助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○校報「いま八百津高校では」の配布やデュアルシステム成果発表会等による情報発信 ※今後も機会あるごとに学校の活動をアピールして八百津高校のよさを伝え続けてほしい。 ※デュアルシステム成果発表会では、働くことの意義などについても伝えられるとよい。	
3年間の成果または評価	
◇事業開始以降は、毎年定員を超えるなど出願者数は安定している。 ◇地域と連携したキャリア教育の推進、「ふるさと教育」の機会増加など教育内容の充実が図れた。 ◇デュアルシステムなどの取組で生徒一人一人の進路目標が明確化し、職業観が醸成された。 ◇町役場、町教育委員会や地区の中学校への情報発信の機会が増加し、学校への理解が深まった。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○デュアルシステムによる企業実習など地域と連携したキャリア教育の充実 ・1年生全員参加のインターンシップから地域の企業と連携による企業実習へ系統化 ○多様な進路志望にきめ細かに対応する単位制への改編 ・デュアルシステムのほか、人道教育など学校の特色がより明確となる教育課程を検討	

東濃高校 (第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H28:121/120 → H29:123/120 → H30:122/120 → H31:128/120)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○コミュニケーション能力育成のための演劇表現ワークショップの実施 ※コミュニケーション能力は生徒の将来の生きる力になると予想されるので継続してほしい。 ※俳優でなくアシスタント役ならば地域ボランティア等にも力を借りることを検討してはどうか。 ○御嵩町環境モデル都市交流体験プロジェクト事業への参加 ※中学生との交流を通して、高校生としての自覚や自信を身に付けられた成果は大きい。 ※先輩としての高校生の参加は、地元中学生にとっても大きな刺激になり大変有意義であった。	
地元市町からの主な支援：防災リーダー養成講座の補助、キャリア教育プログラム等への支援	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○校報「東濃高」の配布とオープンキャンパスや一日入学等によるPR ※校報は可児市外国人日本語適応教室でも職員に回覧したり生徒向けに掲示したりしている。 ※校報の地域配布は、情報発信として有効に機能しているので、更なる充実を期待する。	
3年間の成果または評価	
◇事業開始後も、出願者数は毎年継続して定員を上回るなど安定している。 ◇生徒の自己表現力とコミュニケーション能力の向上が見られ学校生活も落ち着いている。 ◇環境や少子高齢化などの社会問題についての理解を深め、地域に学習成果を広めることができた。 ◇防災リーダー養成講座など地域への貢献活動は自治体関係者からも一定の評価を得ている。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○御嵩町環境モデル都市交流体験プロジェクト事業に継続して参加 ・環境モデル都市である御嵩町と連携した環境教育を全校レベルで実践 ・「環境」を軸としつつ、「地域づくり類型」設置など「社会」や「経済」の課題に目を向けさせ、持続可能な開発目標（SDGs）を意識したグローバルな教育を展開	

<グループ1>

瑞浪高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:125/160 → H29:166/160 → H30:154/160 → H31:141/140)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○市の協力による通学条件の改善、購買部の設置等による教育環境整備 ※JR等に合わせた始業時間にするとともに、市コミュニティバスの学校までの延伸を検討。 ※生徒アンケートによる購買部の設置により、昼食時のパン販売が開始され環境改善につながった。 ○生徒一人一人の進路実現を目指した「瑞高塾」の開設による進路指導体制の強化 ※週2日の7限をカットし「瑞高塾」を開設したことは生徒のニーズに合わせたよい取組である。 ※保護者の負担軽減の観点からも、この取組をさらに強化してもらいたい。	
地元市町からの主な支援：市役所ロビーに広報コーナーを設置するなど広報活動を援助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○パンフレット、チラシ、DVD等や卒業制作実践発表会等による情報発信 ※学校案内の媒体の多様化は、市民への理解や中学校での説明にも活用できてよい。 ※卒業制作発表会は、中学生が高校での学びを感じられるよい機会であった。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数が減少傾向にある中で、事業開始後も出願者数は安定している。 ◇瑞浪市や商工会議所、地元小中学校など地域との関係が深まり、明らかに学校が活性化された。 ◇地域と連携した広報により専門性や活性化の取組が地域に理解され、出願者数が増加傾向にある。 ◇4月からの市コミュニティバスの本校（校内にバス停設置）までの延伸の実現につながった。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○専門性を維持しつつ多様な進路希望に対応する単位制への改編 ・学校設定科目の設置や他科の開設科目の選択など、多様な学びを可能とする仕組みを検討 ○瑞浪高校の魅力を発信する積極的な広報活動の展開 ・新たな校務分掌として設置した「瑞高部」を中心に、広報活動をさらに積極的に展開	

土岐紅陵高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:100/120 → H29:133/120 → H30:110/120 → H31:99/105)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○総合学科としての学びを生かした「味ごはん」開発など地域貢献活動の推進 ※地域貢献だけでなく、その取組が生徒の学びに基づき成長につながるという考え方は非常によい。 ※地域と学校の連携に係るコーディネート体制や在り方について検討をしていきたい。 ○地元商工会議所との連携によるキャリア教育の充実 ※生徒の地域への理解が進み、地元企業に就職する者が増えたことは喜ばしい成果である。 ※こうした取組は地域にとってもありがたく重要であり、さらに地元に要望があれば伝えてほしい。	
地元市町からの主な支援：講演会への講師派遣	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○オープンスクールの土曜開催などによる情報発信と広報情報部の設置 ※学校と生徒の活動を実際に見てもらう場を作ることが、学校の理解を得るには何より大切である。 ※現状に満足せず、内容の見直しや機会を増やすことについても引き続き検討を続けてほしい。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数が減少傾向にある中で、事業開始後も出願者数は安定している。 ◇本事業で企画していた「地元企業の説明会」が来年度からは商工会議所の事業となる予定である。 ◇生徒と地元企業の相互理解が進んだことで、地元企業からの求人が昨年度より18社増加した。 ◇課題解決学習発表会などによる広報活動により、中学生に総合学科の学びが浸透してきた。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○総合学科としての学びを生かした地域貢献の推進及び地域連携によるキャリア教育の充実 ・教育課程外の現在の取組を教育課程に位置付けていくことを検討 ○中学生や地域への広報、情報発信の拡大 ・新たな校務分掌として設置した「広報情報部」を中心に協議会の意見を踏まえた広報活動を展開	

<グループ1>

恵那南高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:70/120 → H29:53/80 → H30:57/80 → H31:69/60)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○地元企業、恵那市との三者連携による栗を素材にした「6次産業学習」の推進 ※「恵那南カフェ」の浪漫亭は盛況で、本校が地域から愛されていることが伝わってきた。 ※三者の提携を新たに結び、地域に根付いた「6次産業学習」の継続が図れるとよい。 ○「浪漫学園」による小・中・高・特別支援学校が一体となった地域連携 ※「浪漫学園」は高校生から年少者までの交流が少ない現代の中で大変有効な取組である。 ※年少者に教えるために、年長者としての高校生が自覚を持ち学びを深められる契機となるとよい。	
地元市町からの主な支援：恵那市高校生通学支援モデル事業、「6次産業学習」支援等	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○校報「恵那南だより」や「産社・総合学習発表会」等による情報発信 ※校報「恵那南だより」やポスター制作は継続して発行し、今後も広報に努めるとよい。 ※「産社・総合学習発表会」では、生徒一人一人が地域課題学習に取り組む姿勢がよく伝わった。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数が減少傾向にある中で、事業開始後も出願者数は安定している。 ◇「6次産業学習」の成果として農林水産省地産地消等優良表彰の教育部門において「食料産業局長賞」を受賞することができたことは、地域に支えられながら活動してきた賜物である。 ◇「6次産業学習」や学校説明会による広報の成果を継続していく必要がある。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○新たな「6次産業学習」への改善・発展 ・三者の提携を新たに結び、さらに地域に根付いた「6次産業学習」を継続的に実施 ○「産社・総合学習発表会」等による地域住民や地元中学生への広報 ・恵南地区5中学の2年生を中心に、総合学科としての恵那南高校での学びの特色を今後もPR	

坂下高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:94/120 → H29:54/120 → H30:47/90 → H31:59/90)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○中津川市東部エリアの「まちづくり協議会」等との連携 ※福祉科の出前授業や地域の老人クラブ（ふれあいサロン）への訪問等の活躍に感謝している。 ※まちづくりのボランティアなどの活動に溶け込むことで郷土愛を醸成できるとよい。 ○「咲明日（さかした）ステーション」交流会の定期的な実施と異世代との実践交流 ※未就園児家庭や高齢者の方々との交流は、生徒の地域福祉への意識付けに役立っている。 ※交流のない世代同士を高校が行う行事で結びつけることは、地域にとってもメリットが大きい。	
地元市町からの主な支援：障がい者スポーツの研究・普及費の補助、ICT環境の支援	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○「坂高だより」や中学校向け広報ポスターの発行とFacebookアカウントの公開 ※「坂高だより」の発行は、高校独自の企画や行事などが地域に詳しく伝わるとよい。 ※福祉科への理解は介護への「3K(きつい・汚い・給料安い)」のイメージの払拭が必要である。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数の減少傾向に伴って、出願者数も減少傾向にあったが今年度は増加した。 ◇まちづくり協議会と協力体制を構築することができ、より密接に地元と交流できるようになった。 ◇わかりやすい授業改善など、生徒の実態を踏まえた上で再度検討して実施するとよい。 ◇今後、地域連携行事にさらに多くの生徒が進んで参加できるような方法を検討する必要がある。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○坂下高校のブランドイメージの明確化 ・看護師、介護士、保育士など地域に必要とされ魅力ある専門職を輩出するシステムを確立 ○広く地域に開かれた学校へ ・学校祭の地域への公開や、全員がボランティアに参加するシステムの構築など地域貢献の啓発	

<グループ1>

高山工業高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:164/160 → H29:140/160 → H30:127/160 → H31:148/160)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○産学官連携による「ものラボワークショップ」や「科学ひろば」への参画 ※東大・企業・高山市連携行事の4日間にわたる高校生のものづくり指導は地域への貢献度が高い。 ※子どもたちに科学への関心を高める新規の行事への参画を通して、生徒も視野が広がった。 ○ものづくり体験教室等による近隣の小学生との交流事業の推進 ※ものづくり交流を通して地域の小学生は高山工業での学びについて理解を深めることができた。 ※新学習指導要領に向けた、近隣小学校と連携したプログラミング教育開発への貢献は評価できる。	
地元市町からの主な支援：産官学連携やものづくり体験教室等による支援	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○学校PR動画(DVD)の配布と地元中学校とのWeb会議交流による広報活動 ※本校のものづくりの魅力を伝えるPR動画の地区内中学校3年生全員への配布は効果があった。 ※中学生の進路に関する質問に高校生が直接答えるWeb会議は貴重な交流機会であり広げてほしい。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数が大きく減少するのに伴い、出願者数は減少傾向にあるが今年度は増加した。 ◇地域や企業と連携して工業教育の魅力を高めることは、学校だけでなく工業の持つ力を伝えられる。 ◇生徒自身も本校で学ぶ専門知識・技術が、地域課題解決や社会貢献につながるという理解ができた。 ◇児童生徒にもものづくりの楽しさや大切さを伝えることを通じて、生徒の人的成長につながった。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○「飛驒の匠工房」や「ものづくり体験教室」などのサテライトキャンパスの充実 ・地元企業と連携して開発した製品や飛驒の匠のものづくりを受け継いだ伝統工芸品を販売 ○学校PR動画のダイジェスト版の製作・配布と地元中学校とのWeb会議交流 ・PR動画をHPにもアップできるよう再構成すると同時にハード環境の整備を機にWeb会議を拡大	

飛驒神岡高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:77/80 → H29:82/80 → H30:58/80 → H31:64/80)	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○総合学科における系列の学びを生かした地域課題解決型学習による取組 ※課題解決学習の取組は地域の魅力の学びにつながり「飛驒市学園構想」とも方向性は一致する。 ※「ガッタンゴー」トンネル内のLED設置や「宙ドーム」の商品開発は直接観光客増につながった。 ○「ジオスペースアドベンチャー」等、研究施設や地元商店街と連携した地域活性化事業 ※生徒が地元と一体となってこれほどまで多くの地域活性化の事業に貢献していることに感謝。 ※「飛驒神サポーター」の支援がロボットの世界大会での好成績にもつながっていると嬉しい。	
地元市町からの主な支援：地域情報誌や新聞チラシなど広報活動の援助、KAGRA見学バス補助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
○学校を公開する「OPEN!飛驒神」や小学生親子体験授業を通じた情報発信 ※学校公開に例年300人を超える一般参観者があるのは地域の本校に対する期待の表れである。 ※親子による体験学習は「飛驒市学園構想」の先進的な視点であり、今後も発展させてほしい。	
3年間の成果または評価	
◇地区の中学卒業生数が大きく減少する中で、事業開始後は出願者数は安定している。 ◇保小中高特支が連携し課題解決型の人材育成を目指す「飛驒市学園構想」の牽引役として期待。 ◇「OPEN!飛驒神」は定着しつつあり、生徒自らの運営に発展して、誇りと自信が感じられる。 ◇生徒が地元と一体となって地域活性化に貢献する姿は「ふるさと教育」のモデルである。	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
○地域課題解決型学習や地域の魅力を発信する商品開発などを通じた学びの場の充実 ・地域課題解決に向け、総合学科の特性を生かしつつ部活動も含めたトータルな教育体制の構築 ○地域貢献活動によって地域活性化の担い手となる高等学校の在り方の研究 ・コミュニティ・スクールとして、高校の活性化だけでなく地域活性化の担い手としての高校を追求	

<グループ2> (2017年度から実施)

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※ は活性化協議会等で出された外部からの意見 ◇ は今後の方向性

山県高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 101/160 → H30: 119/160 → H31: 93/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○単位制の導入に向けて生徒に選択させる類型についての事前調査と検討 ○デュアルシステムによる企業実習の開始 ※本校や地域の特色を出すために、工業や福祉を選択できるようになったことは大変喜ばしい。 ※地元企業12社もの協力を得られて実施にこぎ着けられたことは大変ありがたく、発展が望まれる。 ◇単位制となり工業類型の生徒が全員企業実習に参加する場合は、更なる製造業の協力依頼を検討	
観点②	地域と連携した事業
○地域行事への参画や夏休み講座、介護施設訪問など地域ボランティア活動 ※山県市としても美山小、美山中は連携推進校と位置付けて一体となって協力していきたい。 ◇働き方改革の観点からも教員負担の軽減を図りつつ、MSリーダーズなどの充実を検討	
地元自治体等からの主な支援:「山高MIRAI (未来) プロジェクト」によるキャリア教育への補助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○中学校開催の高校説明会への参加等による広報活動と単位制の導入に関する周知 ※同じ中学校出身者による話は中学生は大変興味をもって聴くし、成長した姿に感激している。 ◇地元の小中学校や公共施設と連携を図りながら、更なるPR方法について検討	
揖斐高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 136/160 → H30: 160/160 → H31: 137/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○地元商工会や企業の協力によるデュアルシステムの展開 ○生活環境科の取組やデュアルシステム、揖斐高ショップの報告を含む「学習成果発表会」の充実 ※デュアルシステムは地元企業の魅力を知ると同時に、一年間で大きく成長できるよい機会である。 ※揖斐高校の伝統を引き継いでいる点が評価されると同時に、中学生にも進路選択の参考となる。 ◇デュアルシステムの更なる充実に向けては、産学の協力が不可欠であり今後も密な連携を継続	
観点②	地域と連携した事業
○「地域医療講座」及び「地域医療講座ワークショップ」の開講 ※医療、看護、介護等の9コースに分かれた体験学習はコミュニケーション能力の育成にも役立つ。 ◇普通科にも参加希望者を呼びかけ多様な進路希望の実現の手助けとなるような講座への発展を検討	
地元自治体等からの主な支援: 学習成果発表会等の会場費補助、地域医療講座の移動費補助等	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○学習成果発表会への地元中学2年生の招待と中高一貫教育を生かした一日入学実施 ※揖斐川町施設での開催に感謝すると同時に、中学の早い段階で進路意識を高める多様な連携が必要。 ◇連携型中学校が揖斐川町の他の2校(谷汲中、坂内中)に広がるのを契機により多くの交流を検討	
池田高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 151/160 → H30: 182/160 → H31: 149/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○地域の清流環境保全についての研究と地域への啓発活動 ○ユネスコスクールとしてのESD(持続可能な開発のための教育)活動とICTを活用した教育の実践 ※清流の国づくりを推進する県の方向性とも合致するので「ハリヨを守る会」等と連携を深めてほしい。 ※他校に先駆けてタブレット端末を活用した授業実践には、将来性と本校の可能性を感じる。 ◇来年度県で整備される電子黒板や実物投影機の先進的活用のほか、中学校との交流などに拡大を検討	
観点②	地域と連携した事業
○池田町主催の「キャリア教育推進事業」「中高生海外派遣事業」等への参画 ※池田町は福祉の街であり、地元の専門学校等とも連携しながら、さらに実践の場をを広げてほしい。 ◇地域と連携した様々な活動が、将来地元で生活したいという意欲につながるよう深化を期待	
地元自治体等からの主な支援: 各種検定等の補助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○中学生とその保護者向けの学校PRパンフレットの作成と中学校訪問、出前授業の拡大 ※協議会での意見が反映され、周辺中学校や保護者等への積極的なPR活動は評価できる。 ◇部活動も中学生にとって高校選択の観点の一つであるので、部活動の魅力化についても検討	

<グループ2> (2017年度から実施)

海津明誠高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29:182/200 → H30:188/200 → H31:191/200)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○地元小中学校及び特別支援学校の教員との合同による教科会議や出前講座の実施 ○市町関係者、産業界代表を含む活性化協議会全体で新しいまちづくりを学ぶ地域連携活動 ※小中学校や特別支援学校と高校との交流は貴重な機会であり、プログラミング指導なども期待する。 ※JAにしみの20周年と本校100周年でコラボするなど地域連携活動は歩調を合わせながら協働したい。 ◇働き方改革の観点からも各教科や分掌で地域活動の在り方をよく見直すとともに事前指導を充実	
観点②	地域と連携した事業
○高齢者への配食（ディナー）のサービスと商品開発・「まちゼミ」等の観光振興活動 ※まさに地域に必要な学校としての活動で、学校の特色を生かしながら地域貢献の場を広げてほしい。 ◇配食サービスは要望が高いので、調理技術の向上と授業時間の確保等の配慮をしながら継続	
地元自治体等からの主な支援：卒業発表会の会場費補助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○卒業発表会への中学生の招待と市報「かいづ」に「明誠だより」を毎月掲載 ※年々内容が充実し、特に専門学科の発表は中学生の進路目標づくりのよい機会となっている。 ◇本事業終了後以降もいかに継続して多くの中学生に参加してもらえるかを市と一体となって検討	

関有知高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29:153/160 → H30:163/160 → H31:135/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○「わかる・できる・活動する」授業改善の研究と実践 ○生活福祉科の特色を生かした地域で活躍するスペシャリストの育成 ※学び直しや基礎学力の定着を図ることはありがたいが、一味違った才能の開花も期待している。 ※美濃地区唯一の生活産業科として、検定合格を機に自分の生活を見直せる生徒を育成してほしい。 ◇基礎学力の定着と検定への取組を通して、見通しを持つ力や忍耐力などの育成も目指す	
観点②	地域と連携した事業
○関市社会福祉協議会の福祉協力校としての連携やボランティア活動、地域行事への参画 ※関市の産業を支えている地元就職者は本校卒業生が多く、今後も関市のものづくりを支えてほしい。 ※家庭クラブだけでなく、吹奏楽部やダンス部などの地域行事への参加も明るい話題である。 ◇生活福祉科やボランティアなど一部の生徒による自主的な活動を継続、全校生徒に拡充・発展	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○オリジナルクリアファイルの作成と配布、生活福祉科講習会等を新聞記事でPR ※今年度新調された70周年記念ファイルは大変好評で、今後もHP等を通じてPRを継続してほしい。 ◇中学生や保護者に学校HPの重要性が近年増しているため、より利用しやすいHPの在り方を検討	

吉城高校 (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29:110/160 → H30:110/120 → H31:94/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○生徒の志望や適性に即した学びを可能とする単位制の導入とカリキュラム改編の検討 ○理数教育フラッグシップハイスクール（F S H）と併せた理数科の活性化 ※「フードデザイン」「生活と福祉」「地域理解探究」など実社会との接点を意識した科目に期待。 ※京都大霊長類研究所や核融合科学研究所での校外研修などF S H吉城高校の特色を出してほしい。 ◇高大接続改革への積極的対応やICTの効果的活用、課題研究発表会の更なる充実が課題	
観点②	地域と連携した事業
○地域課題解決型キャリア教育「YCK(吉高地域キラメキ)プロジェクト」と地域人材の活用 ※「YCKプロジェクト」は地域で認知度も上がっており、生徒による自主的な活動へ発展を期待する。 ◇地域の大人と語ろう会など、連続性と系統性ある地域連携活動により「飛騨市学園構想」へ発展	
地元自治体等からの主な支援：キャリア教育コーディネータに関する補助、広報活動や海外研修への援助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○70周年記念事業と協働したメディアの活用とYCK報告会等による情報発信 ※YCKは生徒が自己実現と達成感を感じる場であり、地域に元気や夢を与える場となっている。 ◇飛騨市内にとどまらない効果的・効率的な広報戦略の研究など、今後もPR活動を継続・発展	

<グループ2> (2018年度から実施)

恵那農業高校 (第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H30:154/160 → H31:146/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○「花さかみつばちプロジェクト(蜜蜂とともに里山の調査・保全・活用)」の実施 ○「シクラメンの学校列車」「みのじのみのりまつり」「次米行事」など地域イベントへの参画 ※市と企業と学校の三者協定によるエゴマ・蜂蜜の商品開発は生徒にも自己有用感・達成感を与える。 ※イベントへの動員だけでなく、活動の量やそこの学びについて検証しながら継続が必要。 ◇収穫物の加工段階における機械化など作業の効率化を図りながら地域の耕作放棄地再生に貢献	
観点②	地域と連携した事業
○「えな食べるプロジェクト」や「シクラメン産地活性化プロジェクト」への参画 ※地元食材利用の高校生考案による給食献立や、高度なシクラメン栽培研究が特に評価される。 ◇いずれの活動も高い評価を得ており、今後いかに内容を深め広げていくかが課題	
地元自治体等からの主な支援:「花さかみつばちプロジェクト」「えな食べるプロジェクト」の支援・援助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○生徒デザインのクリアファイルの中学生配布、学校便りカラー版の地域配布による広報活動 ※在校生からの意見や情報発信が中学生にとって影響が大きいし、魅力がより伝わると思われる。 ◇地元の中学校と連携を図り、学校便りの掲示や生徒が直接中学生に学校をPRする機会を検討	

中津商業高校 (第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H30:175/160 → H31:150/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○地元企業の現地法人訪問を含むベトナム・ホーチミン海外研修の実施 ○マーケティング講話や体験実習など専門性を生かした高大連携事業の実践 ※地元企業の海外進出への理解を通じて、地域経済に関心をもってくれる研修となるとよい。 ※講話や体験実習を通して、生徒がどのように変容したかが明確になるとよい。 ◇海外研修は国際経済の学習に特化せず、異文化理解や現地学生との交流などを今後に向けて検討	
観点②	地域と連携した事業
○地元企業とのコラボ商品開発や地域イベントでの販売実習を通じた地域貢献 ※毎年新しい味の商品開発をしてもらっているが、市民への周知のためにも事前のPRが課題である。 ※大変多くの地域イベントに参加してもらい、市民からの期待も大きいので継続・発展してほしい。 ◇高校生の新鮮な視点を生かした新しい連携企業開拓、新しい商品開発などを検討	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○地元中学校への生徒による出前講座やSNSの積極的な活用による広報活動 ※中学校教員には普通科高校出身者が多いので、専門科に関する知識と理解を深めるよい機会である。 ◇授業時間内に行う出前講座は担当できる生徒を増やし、交代制での運用を検討	

中津川工業高校 (第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H30:139/160 → H31:151/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○中津川の歴史や工業を支える人材育成に向けたキャリア教育の推進 ○先進校の事例を参考にした学科・カリキュラム改編及びICTを活用した授業改善の検討 ※地元建設業等に本校卒業生が多く就いており、感謝すると同時に出前授業による高校理解を期待。 ※リニア開業も見据えつつ地域と連携を図りながら街の活性化につながる手立てを考えてほしい。 ◇JRからの情報提供は多くないが、地元を支える人材育成に向けてキャリア教育の充実を検討	
観点②	地域と連携した事業
○テクノボランティアや小中学生や保護者に向けた出前授業など地域に根ざした教育活動の展開 ※地域に根ざした多様な出前講座等により、地域を大切に思う子どもが地元で育つことを期待する。 ◇働き方改革の視点から教員の負担にも配慮しながら、事業を精選することも必要 ◇整備されるエアコンやICT機器を活用しつつ、工業高校として充実した環境整備を検討・要望	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○女子を含めた中学生により関心を持ってもらえるような環境整備と広報活動の充実 ※女子トイレの増設や学校案内パンフレットに「中工ガールズ」設置など幅広い活動は評価できる。 ◇従来の広報活動を根本から見直し、より効果的で適切な広報活動の在り方を検討	

(3) 進学指導推進事業

- 2017年度より、県立高校における大学合格実績の向上を図るため、普通科を設置している高校を中心に、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を推進している。2018年度は進学指導重点校を2校追加指定すると同時に、進学指導連携事業、県総合教育センターによる研修事業については、前年度の実績をもとに事業内容の改善を図りながら継続して推進した。

進学指導重点校事業

- 大学進学を主目的とした普通科がある高校の中から、2017年度に指定した4校に加えて、2018年度は加納、本巣松陽の2校を、進学指導重点校として追加指定した。各校の2018年度の実績は以下のとおりである。

※進学指導重点校	2017年度～：岐阜北、大垣南、加茂、可児
	2018年度～：加納、本巣松陽

(各校の実績は次頁より)

＜進学指導重点校＞

各校のまとめにおける ◇ は今後の方向性を表す。

岐阜北高校
研究主題
難関大学を目指す姿勢・学習を継続していくことのできる生徒の育成についての研究
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○「名古屋大学大学院国際理解教育プログラム（EIUP）」との交流及び見学【2年生全員】 EIUPとの交流を通して「発展途上国の開発援助」等の探究的な学習を行い知的好奇心を喚起 ◇大学院生との交流等を「探究の時間」の中心的活動に位置付け、さらに充実・発展を検討 ○難関大学進学者との交流【1年生全員及び他学年希望生徒】 難関大学に進学した卒業生から難関大学合格のための具体的な学習方法を伝授 ◇その後の質疑応答も含めて生徒には大変好評であり、来年度以降も時間や形式を検討して実施
2018年度のまとめ
◎本事業2年目として前年度の課題も踏まえ、特に1年生段階からの進路意識高揚と教員研修（人材育成）に焦点を絞り、長期的な視点に立ってそれぞれの取組を積極的に実施した。 ◎新大学入試制度も見据え「主体的に大学を選ぶ」生徒をいかに育てるかが今後の課題である。
大垣南高校
研究主題
進学指導体制の補強を図るとともに、授業力の向上のための教員研修に取り組み、選抜性の高い大学等への進学の実現を目指す地域の期待に応える進学指導力を有する学校づくりの研究
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○外部講師による生徒対象の進路講話、多様な補習授業の展開【全学年希望生徒】 生徒の状況や意識の実態に合わせて、外部講師による講話や出前講座、補習授業を多数展開 ◇新鮮な視点による進路指導や丁寧な個別のアドバイス等効果的な講座が多く継続の方向 ○自学自習できる学習環境の整備と充実【全学年生徒】 進路学習室と多目的室に自習用机・机上ライトを増設し、自学自習の環境をさらに整備 ◇部活動引退後や部活動のない曜日に生徒が取り組みやすいよう、次年度も継続して整備
2018年度のまとめ
◎大学合格者数という結果だけでなく、1・2年生に対して早い段階から進路意識の啓発を図ったほか、職員研修とその共有を通して、学校が一体となって進路実現に向かう体制が構築できた。 ◎環境整備の継続のほか、新大学入試制度を見据え生徒に直接還元できる機会の拡充を検討する。
加茂高校
研究主題
I C T機器の活用やアクティブ・ラーニング等による生徒主体のわかる授業を推進して、確かな学力を身に付けさせ、進路希望の実現に繋げる研究
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○「主体的・対話的で深い学び」を学ぶ委員会を中心とした授業改善と教員の意識改革 大学教員を含む授業改善を目指す委員会を校内に組織し、I C T機器の活用等の研修実施 ◇高大接続改革を見据え、教員が世代を超えて授業改善に果敢に取り組む姿勢は継続 ○生徒の知的好奇心、探究心、進路意識の高揚を引き出す講座【全学年希望生徒】 理数科生徒に探究心を引き出す講座など外部講師による生徒の興味・関心に応じた講座を実施 ◇趣旨と対象を明確にし、モチベーションを維持させる事後指導を工夫して継続
2018年度のまとめ
◎「職員の意識改革・授業改善」と「生徒が意識を高め、志望を実現できる確かな学力を身に付けさせる」の2つを大きなテーマとして、様々な実践に取り組むことができた。 ◎生徒が自主的・主体的に学べる自習室等の環境整備は、最重要課題として今後も努めたい。

<進学指導重点校>

可児高校
研究主題
希望する進路が達成できる可児高校 ～ 国公立大学現役合格率50%を目指した取組 ～
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○可児高校独自の進路指導手作り教材「縮緬（ちりめん）」の作成【全学年生徒に配布】 可児高校卒業生が大学生活や高校時代の学習法を紹介し、執筆・編集まで行った進路冊子を作成 ◇今後も定期的な活動として位置付けるために、財源を検討しながら発展を検討 ○進路指導に関する「教員研修プログラム」への積極参加による指導力の向上 教員の教科指導力、進学指導力向上を図るため、20講座に延べ29名の教員が研修、情報共有 ◇新大学入試制度の導入を控え、将来を見据えて若手を中心に指導力の向上を今後も継続
2018年度のまとめ
◎前年度に引き続き、学習環境の整備や生徒のニーズに合わせた学習機会の確保、進路情報の提供などを行ったほか、今年度は特に外部人材を活用して、教員個々の指導力の向上に取り組んだ。 ◎進学指導重点校として、新大学入試制度や民間試験導入に関する情報を共有して県内を牽引したい。

加納高校
研究主題
高い意識をもち、難関大学を目指す生徒の進路実現をサポートするための研究
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○大学教員による進路実現に向けた「メンタルトレーニング」講座【全学年生徒・教員】 入試に向かうメンタル指導や言語力を鍛えるトレーニングなど新たな視点で進路実現に接近 ◇実施時期や内容の焦点化などを図り、次年度はワークショップ形式を検討 ○模擬試験の効果的活用を目指した「模試解説講義」の実施【1・2年生希望生徒】 外部模試を受けて結果だけを見る対象から、学びの段階確認と次の課題を把握する対象に転換 ◇記述問題の添削等、新大学入試制度を見据えた外部講師の指導は効果的で継続を検討
2018年度のまとめ
◎1・2年生に対して早い段階から進路意識の啓発を図ることで、自ら進んで学習に取り組む生徒が増え、職員研修を通して、教員と生徒が一体となって進路実現に向かう体制を形成できた。 ◎環境整備の継続のほか、高大接続改革を見据え生徒に直接還元できる事業機会の拡充を図る。

本巣松陽高校
研究主題
生徒が主体的に学力向上を目指し、自分をさらに高めることのできる大学への進学希望を実現でき、将来、地域社会に貢献できるような支援体制を構築
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
○推薦・A○入試対策を中心とした小論文講座及び添削指導、面接指導【3年生全員】 本校の生徒の志望と新大学入試制度、その先の学びも見据え外部講師による連続講義を実施 ◇現代社会の課題探究や大学での学びにつなげる意識改革を生徒、教員共に進めて継続 ○国公立大一般入試に向けて基礎学力の定着を目指した教科講座の実施【3年生希望生徒】 最後まで一般入試に挑戦して難関大突破を目指す生徒を育むため外部講師による講座を開設 ◇今後は1年生からの段階的・継続的な学力向上を目指し、時期や対象を再検討
2018年度のまとめ
◎上記の実践のほか、教務部や学年団、各教科の連携のもとで、3年生の自宅学習期間における全校体制による授業・補習が整備されるなど、職員が一丸となった進路指導体制が構築できた。 ◎一過性のものとせず、地域人材の育成を目指した継続的な支援体制の確立が課題である。

進学指導連携事業

- 大学進学指導連絡協議会を中心に、高校間で連携を図り、効果的な入試対策とモチベーション向上を目指す事業を推進している。事業内容は以下のとおりである。

※大学進学指導連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

2018年度の主な事業内容
○《継続》外部講師による高校生のための東大・京大入試研究会【県内全域希望生徒対象】 東大・京大を目指す3年生を対象に、外部講師を招へいし学習対策(国・数・英)の講座を開講 ◇生徒・教員合わせて100名超の参加があるなど恒例行事として定着しつつあるが、更なる充実・発展を目指し、医学部医学科コースの拡充などを検討 ○《継続》東大・京大・名大の入試問題に関する教科別研究会【教員対象】 難関大学の5教科入試問題(理科は全国大会のため中止)を教員が研究・分析し、発表・意見交流 ◇研究・分析の内容充実を目指し、実施方法と時期について検討した上で継続 ○《継続》指導力向上に向けた教員セミナー・研修会への参加【教員対象】 各校の若手教員を中心に、指導力向上を目的に予備校等が開催する研修会に参加 ◇若手教員にとって進路指導力向上だけでなく、授業方法にも参考となる点が多く継続
2018年度のまとめ
◎外部講師による高校生のための東大・京大入試研究会は今年度も大変盛況であり、参加した生徒にとって夏期休業以降の学習のモチベーションの向上や具体的な学習方法について参考になるなど、大変有意義な事業となっており、実施方法を検証して、今後更なる充実・発展を目指す。 ◎その他の事業も各校のバランスや内容を精査して、次年度の実施内容について検討の上、進めたい。

県総合教育センターによる研修事業

- 本事業開始にあたり、県総合教育センター講座に、新たな専門研修として、現状の大学入試問題の分析と大学入学者選抜改革による出題の傾向予想及びそれに対する効果的な学習・指導方法の在り方を研究・開発する講座を、2017年度から開設し、進学指導に係る教員の指導力向上を目指す事業を行っている。2018年度の事業内容は以下のとおりである。

2018年度の事業内容
○ 研究開発講座 教科別問題研究 国語 ○ 研究開発講座 教科別問題研究 数学 ○ 研究開発講座 教科別問題研究 英語 いずれの教科も、午前は外部講師による新大学入試制度や求められる学力についての講演、午後は指導主事等による新学習指導要領についての講義及び効果的な学習・指導方法について演習
2018年度のまとめ
◎新大学入試制度(外部検定試験を含む)について理解を深めるとともに、今後求められる学力向上の方向性について、参加者自身が考えるよい機会となった。 ◎外部講師から新大学入試で求められている力や、それに対応するための指導(授業展開)についての講義を受講でき、若い教員にとってだけでなくベテラン教員にもよい経験となった。 ◎県内指導者から講話やグループワークにより、3年間の見通しをもった指導、高い目標をもたせる指導についての共通認識や目標設定ができた。 ◎大学入学者選抜改革の分析等は、参加者にとってだけでなく、学校現場にとって大変興味深い内容であるため、講義内容やデータの蓄積と共有が今後の課題である。

(4) スーパーグローバルハイスクール（県指定SGH）事業

- グローバルな視点から社会的課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成するため、県内5地区から選抜性の高い大学への進学志望者が多い高校等を指定し、大学や企業等と連携した質の高い教育カリキュラム等の研究・開発などを行った。2018年度の主な取組は以下のとおりである。

※2018年度実施校：岐阜商業、大垣北（国指定）、関、多治見北、斐太

学校名	特色ある主な取組
岐阜商業	○香港での国際商談会や見本市で、地元企業との共同開発商品のテストマーケティングの実施と商品販売のグローバル展開への協力 ○韓国ソニル e ビジネス高校との協働による商品やソフトウェア開発、商品販売
大垣北 （国指定）	○学校設定科目「SGH課題研究」を開講し、系統的・段階的な課題研究を含む新たな教育課程を開発 ○カンボジア・ベトナムでの効果的な海外フィールドワークの実施
関	○訪日外国人を対象とした観光戦略や国連のSDGs（持続可能な開発目標）に沿ったテーマについての課題解決型研究を実践 ○現地の大学や高校との交流を含むイギリス研修及びベトナム研修の実施
多治見北	○外国人留学生（大学生）との英語ディスカッション、ディベート等を3日間行う「エンパワーメント・プログラム」（疑似留学体験）を実施 ○「TKt（多北タイム）」で課題研究活動（沖縄研究・課題研究・地域研究）を展開
斐太	○地域のもつ魅力や地域が抱える課題を探究し、地元企業関係者や大学教授等からの支援を受け、課題解決に向けた提案を行う「地域活性化プログラム」の実施 ○クラス対抗ディベート大会等を通じたコミュニケーション能力育成

- 大垣北高校においては、国際的な教育プログラムである国際バカロレアについて、2016年度からの魅力ある高校づくり推進事業の中で、職員のワークショップへの参加や先進校視察とその研修及び生徒による課題研究などを通して、研究を行ってきた。国際バカロレアの探究的・対話的な授業形態や教育手法については、新学習指導要領や新大学入試制度で求められる資質・能力の育成にも通ずるものであることから、今後も引き続き研究を進める。

(5) 理数教育フラッグシップハイスクール（FSH）事業

- 新学習指導要領の新科目「理数探究基礎」「理数探究」への対応を見据え、自ら主体的に課題を発見し、その解決を図ることのできる生徒の育成を推進するため、これまでSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校や理数科設置校等で行われてきた課題研究の手法や指導方法を県内全ての高校に普及すること

を目的に、県立高校6校を指定し、カリキュラム研究・開発等を行った。

※2018年度実施校：岐阜、岐山、岐阜農林、大垣東、恵那（国指定）、古城

学校名	特色ある主な取組
岐 阜	○科学の面白さを伝える理数系分野に関する学習会や各種実験実技講座の実施 ○物理・生物オリンピックや科学の甲子園への挑戦を通じた科学的探究心の育成 ○岐阜大学、神戸大学をはじめとする各研究機関との共同研究
岐 山	○全教科における科学の視点を重視した授業や主体的・協動的学習への取組 ○高大連携・高企連携によるキャリアプランニング能力とグローバルな見方・考え方の育成
岐阜農林	○大学等と連携を図り、科学技術教育の充実や独自の専門科目を導入 ○全職員によるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動や、ループリックによる評価を取り入れた授業改善の取組
大 垣 東	○大学との連携強化による知的好奇心を刺激する教育環境の整備と理数科を中心とする課題研究の実施 ○課題研究発表会や「夏の美和塾」によるプレゼンテーション能力の育成
恵 那 (国指定)	○地域におけるフィールドワークの実施と評価方法の策定 ○地域の大学、研究施設と連携した科学講座、「恵那田舎塾（全校生徒対象の「地域課題発見」プログラム）」の実施
吉 城	○瑞浪サイエンスワールド、核融合科学研究所、京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター等での現地宿泊研修 ○「夢のたまご塾」等のセミナーやサイエンス教室など大学や研究機関との連携事業

（６）スーパーハイスクールセッション（ＳＳＳ）

- 学んだ知識を社会と関連付けながら経験によって磨き、将来グローバル社会で活躍したり、科学技術の発達に貢献したりする人材を育成するため、県内のスーパーハイスクール（12校）から意欲のある生徒が一堂に集まり、学校の枠を越えて、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな課題解決と提言をまとめた。岐阜大学地域協学センターとの共催で実施した。

※2018年度スーパーハイスクール：岐阜、岐山、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、多治見北、恵那、斐太、古城

（７）高等学校における演劇等ワークショップ事業

- 近年、コミュニケーションが苦手であることを原因として、学業や対人関係に行き詰まりを感じる生徒や、急速な社会のグローバル化に伴い日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。このような生徒に対し、演劇等の自己表現を通してコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、6校において、

プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現ワークショップ等を実施した。

※2018年度実施校：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南

（８）専門高校地区検討委員会等について

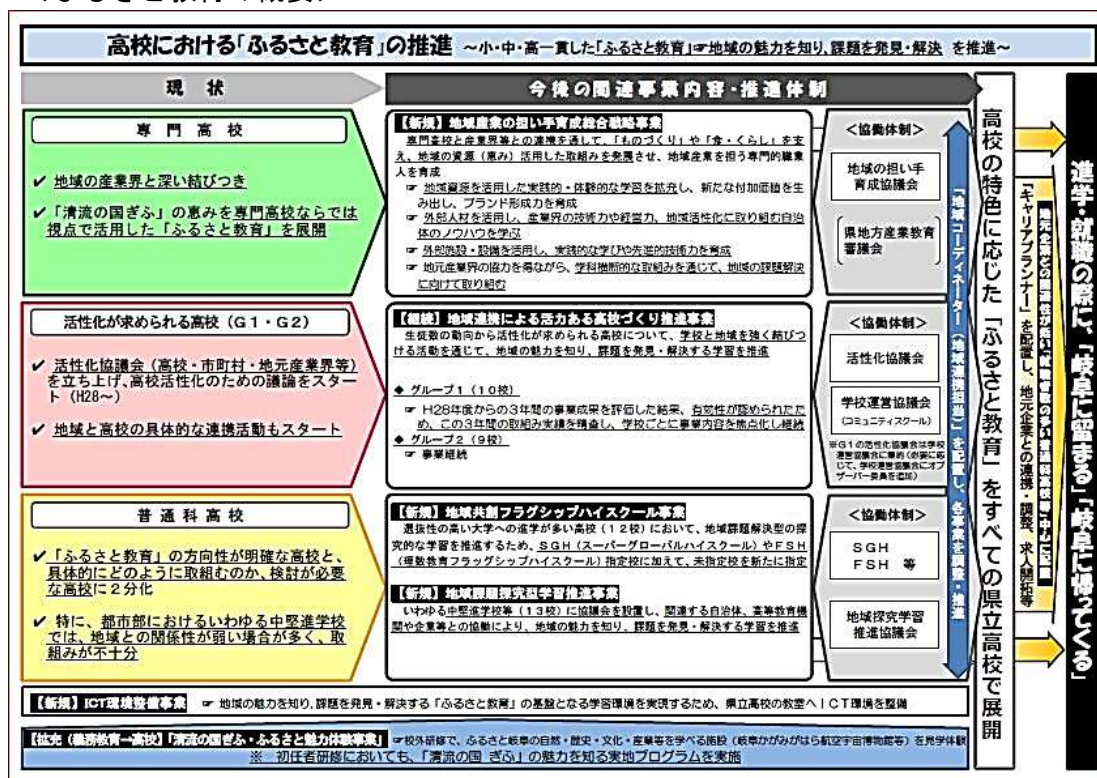
- 岐阜県地方産業教育審議会（以下、地産審）からの「答申」（2018年3月）を踏まえ、県内5地区（岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨）における産業の状況や人材ニーズ等を踏まえた専門高校の教育を実現するための方策について、地区ごとに産業界、中学校及び関係高校等の代表者が集まり協議する場として、地区検討委員会（以下、検討委員会）を開催した。
- 検討委員会では、各地区における専門高校の在り方や専門高校において育成すべき人材像等について共通理解を図るとともに、グローバル人材の育成、地元企業等での実習、中長期インターンシップの実施、産業の最先端で活躍する方による特別授業の実施、専門高校間又は専門学科間の連携による教育の方策、小・中学校におけるキャリア教育等について協議した。
- 検討委員会での協議内容は2018年度の地産審に報告し、更なる議論を重ねた上で岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）にも反映させ、県内産業の状況や人材ニーズ等を見据えながら、地域資源を活用した地域に貢献できる人材育成、産業界と連携したインターンシップの推進、グローバルな視野をもつ専門高校生の育成等、産業教育の充実に向けた取組を展開する。

3 2019年度以降の取組内容と今後の方向性

(1) ふるさと教育の推進

- 2019年3月に示された岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）において、今後5年間の教育政策の基本的な考え方として、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」が掲げられた。
- 子どもたちが将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「地域社会人」として活躍するためには、児童生徒がふるさとをよく知り、また、自らがふるさとで活躍していく将来像を描けるようにする必要がある。このため、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむふるさと教育の取組を、小・中・高一貫して展開する。
- 特に高校では、新学習指導要領や新大学入試制度も見据え、地域と高校を強く結び付ける活動を通じて、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する探究的な学習を推進していく必要がある。そこで、「ふるさと教育」の枠組みの中で、ふるさとを教材とした探究的な学習を全ての高校で展開することとする。
- 小・中学校で学んだ知識を基に、全ての高校で、特色に応じた「ふるさと教育」を展開することで、ふるさとに誇りと愛着をもち、「清流の国ぎふ」を担う人材の育成を目指す。

＜ふるさと教育の概要＞



- また、高校がより地域と連携するために、地元自治体や産業界、高等教育機関へ協力の依頼や連絡、調整を専門に行う地域コーディネータを配置するほか、地域創生の担い手となる人材を育成するため、就職・進学情報、地域や地元企業に関する課題を高校生に提供するキャリアプランナーを配置するなど、支援体制を強化する。

[ア] 地域産業の担い手育成総合戦略事業（新規）

専門高校において、産学官連携のもと、専門家から学ぶ機会の充実や外部施設設備の利活用を推進し、地域の特徴的な資源を活用した実践研究を行うことで、地域産業を担う人材を育成する。（10校：2年間指定）

※2019年度～実施校：岐阜総合学園、岐阜城北、岐阜商業、岐阜工業、岐阜各務野、郡上、武義、加茂農林、東濃実業、可児工業
※2021年度～実施校：大垣養老、大垣商業、大垣工業、大垣桜、多治見工業、土岐商業、中津商業、中津川工業、益田清風、飛騨高山

[イ] 地域連携による活力ある高校づくり推進事業（継続）

事業の開始から3年を経たグループ1の10校については、先に述べたように、学校ごとに特色ある活性化策が具体化され、一定の成果が得られたと考えられる。そこで、2019年度は学校ごとの3年間の総括を踏まえ、特に成果の大きかった取組を中心に展開し、更なる活性化を目指すこととする。

また、グループ2の9校については、2019年度は協議会を継続し、各校の活性化の在り方についての議論とその具体化に向けた取組を続ける。

なお、地域連携体制の一層の強化を図るため、2018年度からはグループ1の高校など県立学校11校をコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）としている。2019年度はグループ2の高校などを加えて、高校19校と特別支援学校2校の県立学校21校をコミュニティ・スクールとする。

※2018年度～：揖斐、不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、飛騨神岡、岐阜清流高等特別支援
※2019年度～：山県、池田、海津明誠、関有知、恵那農業、中津商業、中津川工業、高山工業、吉城、西濃高等特別支援

[ウ] 地域共創フラッグシップハイスクール事業（新規）

多くの生徒が選抜性の高い大学に進学する普通科高校において、グローバルな

視点で海外を含めた関係機関（自治体、大学、企業等）と連携して、課題を発見・解決する探究的な学習を通して、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をもち、地域創生などの分野で活躍できる人材を育成するため、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める。

※2019年度～実施校：岐阜北、長良、加納、大垣北、可児

[エ] 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）（新規）

専門的な知識・技術を身に付けた地域を支える専門的職業人を育成するために、地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを専門教科・科目を含めた教科・科目に位置付け、岐阜工業高校内にある「モノづくり教育プラザ」等を活用し、体系的・系統的に学習するためのカリキュラム開発を行う。

※2019年度～実施校：岐阜工業（国指定）

[オ] スーパーハイスクールセッション（SSS）（拡充）

県内のスーパーハイスクール（16校に拡大）から意欲のある生徒が一堂に集まり、学校の枠を越えて、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな課題解決と提言をまとめる取組を拡大して実施する。

※2019年度スーパーハイスクール：岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城

[カ] 地域課題探究型学習推進事業（新規）

地域との連携に課題のある普通科高校において、協議会を設置し、関連する自治体、高等教育機関や企業等との協働により、地域の魅力を知り、より地域に密着した課題を発見・解決する探究型学習を推進する。

（課題探究型学習の例）

- ・協議会を通して地域の魅力を知るとともに、協議会から出された教育・福祉・観光・防災等の地域課題を把握する。
- ・市町村職員・大学研究者・企業経営者等による出前授業やワークショップ等を実施する。

- ・フィールドワーク、ICTの利活用によるデータの分析、論点の整理など、実践的な探究学習による解決策の提案を行う。

※2019年度～実施校：羽島北、各務原、各務原西、本巣松陽、羽島、大垣南、大垣西、武義、郡上、加茂、多治見、中津、益田清風

[キ] 清流の国ぎふ ふるさと魅力体験事業（拡充）

小・中・高一貫して「ふるさと教育」を実施するため、例えば、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館など、県の自然・歴史・文化・産業等に関する施設や名跡等を訪れ、その魅力を知り体験する学びを、小・中学校等に加え、新たに全ての県立高校において順次実施する。（3年間で全県立高校63校が実施）

※2019年度予定校：長良、加納、羽島北、岐南工業、岐阜各務野、池田、大垣西、大垣工業、不破、武義、関、加茂、可児工業、多治見工業、瑞浪、土岐商業、恵那、恵那南、中津川工業、飛騨高山、高山工業

[ク] ICT環境の整備（新規）

高校・特別支援学校においては、新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びへの転換が迫られており、その実現にはICTの活用が不可欠と考えられている。そこで、一人一人の個性や能力に応じたわかりやすい授業を展開し、問題解決能力やコミュニケーション力の向上につなげることを目的に、全県立学校の普通教室や特別教室（理科室、実験実習室等）にあらゆる学習活動の基盤となるICT機器（大型提示装置、指導者用及び学習者用コンピュータ、無線LAN、実物投影機、ホワイトボード）を設置する。

（2）進学指導推進事業（継続）

- 県立高校における大学合格実績の更なる向上を図るため、普通科がある高校を中心に、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を継続して推進する。

（ア）進学指導重点校事業：指定校6校を継続して活動支援

※2019年度進学指導重点校：岐阜北、大垣南、加茂、可児、加納、本巣松陽

（イ）進学指導連携事業：大学進学指導連絡協議会への支援の継続

※大学進学指導連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

（ウ）県総合教育センターによる専門研修事業の継続

（３）高等学校における演劇等ワークショップ事業（拡充）

- 演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る取組を、以下の県立高校12校に拡大して実施する。

※2018年度～実施校：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南

※2019年度～実施校：郡上北、関有知、土岐紅陵、坂下、飛騨高山（山田キャンパス）、飛騨神岡

（４）今後の方向性について

〔ア〕ＩＣＴ環境の活用について

ＩＣＴ環境の整備に伴い、県教育委員会では、各高校と一体となって、次のような観点で活用を促進していく。

- ・「ＩＣＴ活用ワーキンググループ（WG）」（事務局関係課と一部の高校からのメンバーで構成）を組織し、ＩＣＴ機器の授業における日常的・効果的な活用を促進するため、全県立学校への「ＩＣＴ活用ガイド（仮称）」の配布
- ・「ＩＣＴ活用ガイド」を利用しつつ、各学校ごとに授業改善を図ると同時に、探究的な学習での活用などより効果的な活用方法を研究
- ・ＩＣＴ活用推進リーダー研修を新たに設けるなど教員研修を充実
- ・生徒の減少期も見据え、遠隔授業の必要性について実証研究

〔イ〕専門高校における学科構成について

地産審からの答申で整理された、各専門学科における基本的な「学びの領域」を踏まえ、各専門学科における学科構成の方向性を以下のように整理し、新学習指導要領の実施を見据え、段階的に学科改編等を実施していく。

農業科（学びの領域：生産系 加工系 森林・環境系）

生産系と加工系を統括した学科群と、生産系と森林・環境系を統括した学科群の２学科群構成を基本とし、学科群には各領域を単位とした学科を配置する。

工業科（学びの領域：機械系 電気通信系 建設系 地域産業系）

学びの領域を単位とした学科群構成を基本とする。ただし、学びの領域を単位とした学科が１学科である場合には、学科群としない。

商業科（学びの領域：マーケティング系 会計系 グローバル経済系 ビジネス情報系）

岐阜商業高校には、各領域を単位とした学科を配置し、その他の高校について

は、マーケティング系、会計系、グローバル経済系を統括した学科（ビジネス科）とビジネス情報系の学科（ビジネス情報科）の2学科体制を基本とする。

生活産業科（学びの領域：リビング系 ファッション系 フード系 ヒューマンサービス系）

生活産業科各校における、現在の学びの領域を維持しつつ、全県的な学科名称の統一を図る。

[ウ] コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の拡大について

2017年4月施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映し、地域とともにある学校づくりを実現するために、「学校運営協議会」の設置が努力義務化された。そこで、2018年度から県立学校11校、2019年度は拡大して新たに10校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとした（前掲）。今後も、該当校における実態の検証や学校の意向等を踏まえ、このコミュニティ・スクールの拡大を検討する。

[エ] 今後の生徒減少期を見据えた生徒募集について

今後は以下の2つの観点のもとで、柔軟な定員設定を検討していくこととする。

・ 1学級40人未満の入学定員の設定

1学級40人未満の入学定員の設定については、2018年度入学者選抜で初めて一部の高校において導入し、2019年度入学者選抜において拡大した（前掲）。今後もこれまでの入学状況を踏まえ、小規模校（4学級以下）や1学科1学級である専門学科の定員を減ずる場合の手段の一つとして慎重に検討していく。

・ 専門高校における学科群募集

農業科、工業科において学科群ごとの生徒募集を拡大し、少子化の進展により学科規模が縮小する場合には、柔軟な定員設定やより広い領域を総括した学科群構成を検討していく。

また、県外募集については、県立高校の活性化の一方策として捉え、これまで生徒数の動向等から活性化が求められる高校において、特色のある学科や専門の指導者を有する特色ある部活動を募集分野として、県教育委員会で指定して実施してきた。今後は従来の募集分野に地域と一体となった様々な取組を加えるなど、県外募集のねらいがより明確となるよう改善を図る。また、高校ごとに実施の有

無や募集分野について協議し、その結果を踏まえ、実施校及び募集分野を検討していく必要がある。

[オ] 併設型中高一貫教育校について

県教育委員会が実施した併設型中高一貫教育校等に関するアンケート(※)では、小学校6年生は「入学したい」と回答した割合が15.7%にとどまり、小学校6年生保護者では「入学させたい」と回答した割合は44.5%、教職員においては併設型中高一貫教育校等が「必要である」と回答した割合は、校長は26.9%、教頭・教諭は16.3%と回答の対象者によってその傾向は多様であり、県立の併設型中高一貫教育校等の設置については、一定の方向性は見出せない状況となっている。このため、今後も他県の設置状況や、今後の社会状況の変化も踏まえ、必要に応じてアンケートを実施するなど、幅広い観点から継続して検討していく。

※2019年1月実施 Web形式による任意調査

(回答数：小学6年生 6,434名 保護者 2,420名 校長(小中高特) 509名 教頭・教諭(小中) 1,138名)

4 2020年度の入学者選抜制度の変更及び学科改編等について

(1) 県立高等学校入学者選抜の変更について

インフルエンザ罹患者等への対応

- 県立高等学校入学者選抜におけるインフルエンザ罹患者等については、別室での受検等、受検生の当日の健康状態を踏まえた対応を採っている。しかし、2016年10月14日文部科学省通知「高等学校入学者選抜におけるインフルエンザ罹患者等への対応について（通知）」や、他県における状況等を踏まえ、インフルエンザ罹患者等に対する受検機会の十分な確保や、所定の日程による学力検査の実施困難等の不測の事態に適切に対応するため、現中学校3年生が受検する2020年度入学者選抜より、従来の選抜当日の別室での受検などの対応に加え、第一次選抜、連携型選抜から同合格発表までの期間に「追検査」を実施することとする。
- また、第二次選抜の学力検査について、従来は5教科の中から各高校で実施する教科を指定していたものを、国語、数学、英語の3教科の中から指定することとする。

出願時における第2志望、第3志望の取扱い

- 受検生の志望する高等学校での学びの実現に資するため、2020年度入学者選抜より、同一分野に属する他の学科のほか、同一校の他の分野に属する学科（音楽科と美術科を除く）についても、第2志望、第3志望とすることができることとする。

連携型中高一貫教育校における連携型中学校の拡大

- これまで揖斐川町で実施している連携型中高一貫教育では、町村合併により4校となった揖斐川町立中学校のうち、2校（谷汲中学校、坂内中学校）は連携型中学校としていなかった。しかし、揖斐川町では、揖斐高校と揖斐川町立4校との間で、学習面談やサマースクールなどの連携した教育活動を継続してきた。
- こうした教育活動の実績や揖斐川町教育委員会からの要望を受け、従来の揖斐川中学校、北和中学校に、谷汲中学校、坂内中学校を加えた4校を揖斐川町連携型中高一貫教育における連携型中学校とする。

インフルエンザ罹患患者等への対応

<追検査の実施>

◆第一次選抜、連携型選抜

検査内容

<全日制>

（標準検査）

●学力検査（国語・社会・数学・理科・英語）

●実技検査（音楽科、美術科で実施）

○面接（各高校で実施の有無を決定）

※標準検査に加え、独自検査（面接、小論文、実技検査、自己表現の中から各高校が指定する検査）を実施

<定時制>

●高校が指定する学力検査

●面接

○小論文、実技検査、自己表現の中から高校が指定する検査

追検査の実施

✓第一次選抜、連携型選抜とは別日程で実施

✓検査内容は第一次選抜、連携型選抜と同様（学力検査等は別問題）

<第二次選抜における学力検査>

第一次選抜・連携型選抜の合格者数に帰国生徒等及び外国人生徒等に係る入学者の選抜における合格者数を加えた数が、入学定員に満たない学科（群）・部で実施

●全員に面接を実施

○面接に加え、学力検査（国語、数学、英語の3教科から各高校で指定※）、小論文を実施する高校もある（音楽科及び美術科では実技検査を実施）

※5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の中からの指定を、3教科に変更

出願時における第2志望、第3志望とすることができる学科について

Aに示す分野に属する学科に出願した場合、同一校の**B**に示す分野に属する学科を第2志望、第3志望とすることが可能

A

普通、総合、農業、工業、商業、生活産業、情報、理数、音楽、美術

B

普通、総合、農業、工業、商業、生活産業、情報、理数

連携型中高一貫教育校における連携型中学校の拡大について

揖斐川町に設置する連携型中高一貫教育校における連携型中学校を2校から4校に拡大

揖斐川中学校、北和中学校



揖斐川中学校、北和中学校、谷汲中学校、坂内中学校

(2) 学科改編等について

- 検討課題を踏まえ、2020年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施の学科改編等、各高校ごとの個別の活性化策については、以下のとおりである。

八 百 津	単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）
	（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。 （方向性）これまで実施してきたデュアルシステムや人道教育を学校設定科目として位置付けるほか、防災リーダーの養成や郷土研究等に特化した科目を開設。
瑞 浪	普通科と生活産業科に単位制を導入 （単位制による全日制課程普通科、生活産業科）
	（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。 （方向性）大学進学や医療看護系、保育系、理美容系等の分野に対応する科目を設定するほか、課題設定解決能力を育成する探究型の科目設定についても検討。
恵 那	普通科と理数科に単位制を導入 （単位制による全日制課程普通科、理数科）
	（目的）より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能とするため。 （方向性）医師や教員などを志望する生徒が科の枠を超えて履修できる科目や地域課題を解決する科目等、多様でより高い学びの意欲に応える教育課程を編成。
大垣養老	農業科における既存の3学科を4学科に再編 2学科群（食の農学科群、緑の農学科群）として募集
	（目的）農業科における学びの3領域に対応し、農業教育の充実を図るため。 （方向性）既存の3学科を4学科に再編（動物科学科、食品科学科、園芸科学科及び環境科学科）し、農業教育の充実を図るほか、学科群ごとの募集とすることで、柔軟な学科人数設定を可能にし、少子化に対応。
大垣工業	既存の7学科を8学科に再編 3学科群（機械工学科群、電気・電子工学科群、建設工学科群）＋化学技術工学科として募集
	（目的）工業科における学びの4領域に対応し、工業教育の充実を図るため。 （方向性）既存の7学科を8学科に再編（機械工学科、電子機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報技術工学科、建築工学科、土木工学科及び化学技術工学科）し、工業教育の充実を図るほか、4領域（3学科群＋1学科）ごとの募集とすることで、柔軟な学科人数設定を可能にし、少子化に対応。
飛騨高山 （山田 キャンパス）	農業科における既存の3学科を4学科に再編 2学科群（食の農学科群、緑の農学科群）として募集
	（目的）農業科における学びの3領域に対応し、農業教育の充実を図るため。 （方向性）既存の3学科を4学科に再編（動物科学科、食品科学科、園芸科学科及び環境科学科）し、農業教育の充実を図るほか、学科群ごとの募集とすることで、柔軟な学科人数設定を可能にし、少子化に対応。

資料編

- ・ 参考資料 1 中学校卒業予定者数の推移（全体／地区別）
- ・ 参考資料 2 平成31年度入学者選抜の変更点に関するリーフレット
- ・ 参考資料 3 平成30年度岐阜県立高等学校ガイド
- ・ 参考資料 4 県外募集に関するチラシ

参考資料 1

中学校卒業予定者数の推移

<全県>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
岐阜	8,010 前年比 H30年比	7,786 ▲ 224 ▲ 224	7,393 ▲ 393 ▲ 617	7,311 ▲ 82 ▲ 699	7,545 234 ▲ 465	7,356 ▲ 189 ▲ 654	7,450 94 ▲ 560	7,120 ▲ 330 ▲ 890	7,224 104 ▲ 786	6,921 ▲ 303 ▲ 1,089
西濃	3,813 前年比 H30年比	3,617 ▲ 196 ▲ 196	3,491 ▲ 126 ▲ 322	3,445 ▲ 46 ▲ 368	3,507 62 ▲ 306	3,288 ▲ 219 ▲ 525	3,372 84 ▲ 441	3,219 ▲ 153 ▲ 594	3,202 ▲ 17 ▲ 611	3,147 ▲ 55 ▲ 666
美濃	1,463 前年比 H30年比	1,394 ▲ 69 ▲ 69	1,349 ▲ 45 ▲ 114	1,309 ▲ 40 ▲ 154	1,374 65 ▲ 89	1,345 ▲ 29 ▲ 118	1,297 ▲ 48 ▲ 166	1,331 34 ▲ 132	1,288 ▲ 43 ▲ 175	1,355 67 ▲ 108
可茂	2,191 前年比 H30年比	2,262 71 71	2,158 ▲ 104 ▲ 33	2,061 ▲ 97 ▲ 130	2,145 84 ▲ 46	2,086 ▲ 59 ▲ 105	2,059 ▲ 27 ▲ 132	2,037 ▲ 22 ▲ 154	2,093 56 ▲ 98	2,051 ▲ 42 ▲ 140
東濃	3,091 前年比 H30年比	3,021 ▲ 70 ▲ 70	2,954 ▲ 67 ▲ 137	2,786 ▲ 168 ▲ 305	2,863 77 ▲ 228	2,985 122 ▲ 106	2,791 ▲ 194 ▲ 300	2,725 ▲ 66 ▲ 366	2,772 47 ▲ 319	2,721 ▲ 51 ▲ 370
飛驒	1,466 前年比 H30年比	1,373 ▲ 93 ▲ 93	1,279 ▲ 94 ▲ 187	1,265 ▲ 14 ▲ 201	1,242 ▲ 23 ▲ 224	1,248 6 ▲ 218	1,318 70 ▲ 148	1,246 ▲ 72 ▲ 220	1,177 ▲ 69 ▲ 289	1,195 18 ▲ 271
県全体	20,034 前年比 H30年比	19,453 ▲ 581 ▲ 581	18,624 ▲ 829 ▲ 1,410	18,177 ▲ 447 ▲ 1,857	18,676 499 ▲ 1,358	18,308 ▲ 368 ▲ 1,726	18,287 ▲ 21 ▲ 1,747	17,678 ▲ 609 ▲ 2,356	17,756 78 ▲ 2,278	17,390 ▲ 366 ▲ 2,644

<岐阜地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
岐阜市	4,079 前年比 H30年比	3,935 ▲ 144 ▲ 144	3,734 ▲ 201 ▲ 345	3,696 ▲ 38 ▲ 383	3,649 ▲ 47 ▲ 430	3,520 ▲ 129 ▲ 559	3,663 143 ▲ 416	3,481 ▲ 182 ▲ 598	3,553 72 ▲ 526	3,331 ▲ 222 ▲ 748
羽島市	670 前年比 H30年比	680 10 10	671 ▲ 9 1	582 ▲ 89 ▲ 88	659 77 ▲ 11	650 ▲ 9 ▲ 20	588 ▲ 62 ▲ 82	663 75 ▲ 7	611 ▲ 52 ▲ 59	589 ▲ 22 ▲ 81
各務原市	1,439 前年比 H30年比	1,434 ▲ 5 ▲ 5	1,321 ▲ 113 ▲ 118	1,293 ▲ 28 ▲ 146	1,435 142 ▲ 4	1,438 3 ▲ 1	1,402 ▲ 36 ▲ 37	1,336 ▲ 66 ▲ 103	1,317 ▲ 19 ▲ 122	1,288 ▲ 29 ▲ 151
山県市	242 前年比 H30年比	255 13 13	231 ▲ 24 ▲ 11	227 ▲ 4 ▲ 15	231 4 ▲ 11	196 ▲ 35 ▲ 46	224 28 ▲ 18	198 ▲ 26 ▲ 44	197 ▲ 1 ▲ 45	191 ▲ 6 ▲ 51
瑞穂市	548 前年比 H30年比	544 ▲ 4 ▲ 4	487 ▲ 57 ▲ 61	581 94 33	566 ▲ 15 18	564 ▲ 2 16	621 57 73	549 ▲ 72 1	623 74 75	602 ▲ 21 54
本巣市	393 前年比 H30年比	343 ▲ 50 ▲ 50	362 19 ▲ 31	391 29 ▲ 2	363 ▲ 28 ▲ 30	375 12 ▲ 18	329 ▲ 46 ▲ 64	317 ▲ 12 ▲ 76	289 ▲ 28 ▲ 104	311 22 ▲ 82
本巣郡	169 前年比 H30年比	182 13 13	183 1 14	178 ▲ 5 9	184 6 15	180 ▲ 4 11	201 21 32	160 ▲ 41 ▲ 9	184 24 15	168 ▲ 16 ▲ 1
羽島郡	470 前年比 H30年比	413 ▲ 57 ▲ 57	404 ▲ 9 ▲ 66	363 ▲ 41 ▲ 107	458 95 ▲ 12	433 ▲ 25 ▲ 37	422 ▲ 11 ▲ 48	416 ▲ 6 ▲ 54	450 34 ▲ 20	441 ▲ 9 ▲ 29
岐阜地区	8,010 前年比 H30年比	7,786 ▲ 224 ▲ 224	7,393 ▲ 393 ▲ 617	7,311 ▲ 82 ▲ 699	7,545 234 ▲ 465	7,356 ▲ 189 ▲ 654	7,450 94 ▲ 560	7,120 ▲ 330 ▲ 890	7,224 104 ▲ 786	6,921 ▲ 303 ▲ 1,089

<西濃地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
大垣市	1,530 前年比 H30年比	1,444 ▲ 86 ▲ 86	1,417 ▲ 27 ▲ 113	1,428 11 ▲ 102	1,402 ▲ 26 ▲ 128	1,365 ▲ 37 ▲ 165	1,427 62 ▲ 103	1,372 ▲ 55 ▲ 158	1,380 8 ▲ 150	1,368 ▲ 12 ▲ 162
海津市	319 前年比 H30年比	338 19 19	299 ▲ 39 ▲ 20	267 ▲ 32 ▲ 52	314 47 ▲ 5	260 ▲ 54 ▲ 59	290 30 ▲ 29	261 ▲ 29 ▲ 58	273 12 ▲ 46	241 ▲ 32 ▲ 78
養老郡	296 前年比 H30年比	268 ▲ 28 ▲ 28	279 11 ▲ 17	254 ▲ 25 ▲ 42	258 4 ▲ 38	248 ▲ 10 ▲ 48	245 ▲ 3 ▲ 51	254 9 ▲ 42	230 ▲ 24 ▲ 66	230 0 ▲ 66
不破郡	341 前年比 H30年比	332 ▲ 9 ▲ 9	307 ▲ 25 ▲ 34	343 36 2	336 ▲ 7 ▲ 5	317 ▲ 19 ▲ 24	315 ▲ 2 ▲ 26	295 ▲ 20 ▲ 46	310 15 ▲ 31	285 ▲ 25 ▲ 56
安八郡	536 前年比 H30年比	511 ▲ 25 ▲ 25	481 ▲ 30 ▲ 55	492 11 ▲ 44	509 17 ▲ 27	457 ▲ 52 ▲ 79	465 8 ▲ 71	439 ▲ 26 ▲ 97	439 0 ▲ 97	428 ▲ 11 ▲ 108
揖斐郡	791 前年比 H30年比	724 ▲ 67 ▲ 67	708 ▲ 16 ▲ 83	661 ▲ 47 ▲ 130	688 27 ▲ 103	641 ▲ 47 ▲ 150	630 ▲ 11 ▲ 161	598 ▲ 32 ▲ 193	570 ▲ 28 ▲ 221	595 25 ▲ 196
西濃地区	3,813 前年比 H30年比	3,617 ▲ 196 ▲ 196	3,491 ▲ 126 ▲ 322	3,445 ▲ 46 ▲ 368	3,507 62 ▲ 306	3,288 ▲ 219 ▲ 525	3,372 84 ▲ 441	3,219 ▲ 153 ▲ 594	3,202 ▲ 17 ▲ 611	3,147 ▲ 55 ▲ 666

<美濃地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
関市	874 前年比 H30年比	876 2 2	822 ▲ 54 ▲ 52	804 ▲ 18 ▲ 70	821 17 ▲ 53	831 10 ▲ 43	809 ▲ 22 ▲ 65	845 36 ▲ 29	798 ▲ 47 ▲ 76	829 31 ▲ 45
美濃市	157 前年比 H30年比	167 10 10	141 ▲ 26 ▲ 16	169 28 12	174 5 17	170 ▲ 4 13	151 ▲ 19 ▲ 6	154 3 ▲ 3	168 14 11	170 2 13
郡上市	432 前年比 H30年比	351 ▲ 81 ▲ 81	386 35 ▲ 46	336 ▲ 50 ▲ 96	379 43 ▲ 53	344 ▲ 35 ▲ 88	337 ▲ 7 ▲ 95	332 ▲ 5 ▲ 100	322 ▲ 10 ▲ 110	356 34 ▲ 76
北部 (内数)	(238) 前年比 H30年比	(186) (▲ 52) (▲ 52)	(222) (36) (▲ 16)	(186) (▲ 36) (▲ 52)	(197) (11) (▲ 41)	(173) (▲ 24) (▲ 65)	(188) (15) (▲ 50)	(152) (▲ 36) (▲ 86)	(172) (20) (▲ 66)	(177) (5) (▲ 61)
南部 (内数)	(194) 前年比 H30年比	(165) (▲ 29) (▲ 29)	(164) (▲ 1) (▲ 30)	(150) (▲ 14) (▲ 44)	(182) (32) (▲ 12)	(171) (▲ 11) (▲ 23)	(149) (▲ 22) (▲ 45)	(180) (31) (▲ 14)	(150) (▲ 30) (▲ 44)	(179) (29) (▲ 15)
美濃地区	1,463 前年比 H30年比	1,394 ▲ 69 ▲ 69	1,349 ▲ 45 ▲ 114	1,309 ▲ 40 ▲ 154	1,374 65 ▲ 89	1,345 ▲ 29 ▲ 118	1,297 ▲ 48 ▲ 166	1,331 34 ▲ 132	1,288 ▲ 43 ▲ 175	1,355 67 ▲ 108

<可茂地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
美濃加茂市	547 前年比 H30年比	594 47 47	573 ▲ 21 26	544 ▲ 29 ▲ 3	564 20 17	607 43 60	574 ▲ 33 27	600 26 53	600 0 53	571 ▲ 29 24
可児市	1,018 前年比 H30年比	1,017 ▲ 1 ▲ 1	964 ▲ 53 ▲ 54	979 15 ▲ 39	976 ▲ 3 ▲ 42	946 ▲ 30 ▲ 72	954 8 ▲ 64	884 ▲ 70 ▲ 134	952 68 ▲ 66	932 ▲ 20 ▲ 86
加茂郡	460 前年比 H30年比	479 19 19	453 ▲ 26 ▲ 7	391 ▲ 62 ▲ 69	429 38 ▲ 31	392 ▲ 37 ▲ 68	363 ▲ 29 ▲ 97	402 39 ▲ 58	378 ▲ 24 ▲ 82	395 17 ▲ 65
可児郡	166 前年比 H30年比	172 6 6	168 ▲ 4 2	147 ▲ 21 ▲ 19	176 29 10	141 ▲ 35 ▲ 25	168 27 2	151 ▲ 17 ▲ 15	163 12 ▲ 3	153 ▲ 10 ▲ 13
可茂地区	2,191 前年比 H30年比	2,262 71 71	2,158 ▲ 104 ▲ 33	2,061 ▲ 97 ▲ 130	2,145 84 ▲ 46	2,086 ▲ 59 ▲ 105	2,059 ▲ 27 ▲ 132	2,037 ▲ 22 ▲ 154	2,093 56 ▲ 98	2,051 ▲ 42 ▲ 140

<東濃地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
多治見市	955 前年比 H30年比	988 33 33	965 ▲ 23 10	893 ▲ 72 ▲ 62	942 49 ▲ 13	946 4 ▲ 9	937 ▲ 9 ▲ 18	926 ▲ 11 ▲ 29	882 ▲ 44 ▲ 73	915 33 ▲ 40
土岐市	510 前年比 H30年比	463 ▲ 47 ▲ 47	500 37 ▲ 10	453 ▲ 47 ▲ 57	485 32 ▲ 25	556 71 46	470 ▲ 86 ▲ 40	464 ▲ 6 ▲ 46	489 25 ▲ 21	493 4 ▲ 17
瑞浪市	398 前年比 H30年比	368 ▲ 30 ▲ 30	367 ▲ 1 ▲ 31	359 ▲ 8 ▲ 39	307 ▲ 52 ▲ 91	292 ▲ 15 ▲ 106	293 1 ▲ 105	272 ▲ 21 ▲ 126	292 20 ▲ 106	286 ▲ 6 ▲ 112
東濃西部	1,863 前年比 H30年比	1,819 ▲ 44 ▲ 44	1,832 13 ▲ 31	1,705 ▲ 127 ▲ 158	1,734 29 ▲ 129	1,794 60 ▲ 69	1,700 ▲ 94 ▲ 163	1,662 ▲ 38 ▲ 201	1,663 1 ▲ 200	1,694 31 ▲ 169
恵那市	476 前年比 H30年比	461 ▲ 15 ▲ 15	417 ▲ 44 ▲ 59	425 8 ▲ 51	428 3 ▲ 48	455 27 ▲ 21	409 ▲ 46 ▲ 67	433 24 ▲ 43	405 ▲ 28 ▲ 71	402 ▲ 3 ▲ 74
旧恵南地区 (内数)	(158) 前年比 H30年比	(128) (▲ 30) (▲ 30)	(119) (▲ 9) (▲ 39)	(139) (20) (▲ 19)	(122) (▲ 17) (▲ 36)	(134) (12) (▲ 24)	(135) (1) (▲ 23)	(131) (▲ 4) (▲ 27)	(112) (▲ 19) (▲ 46)	(118) (6) (▲ 40)
中津川市	752 前年比 H30年比	741 ▲ 11 ▲ 11	705 ▲ 36 ▲ 47	656 ▲ 49 ▲ 96	701 45 ▲ 51	736 35 ▲ 16	682 ▲ 54 ▲ 70	630 ▲ 52 ▲ 122	704 74 ▲ 48	625 ▲ 79 ▲ 127
旧恵北地区 (内数)	(214) 前年比 H30年比	(231) (17) (17)	(220) (▲ 11) (6)	(220) (0) (6)	(207) (▲ 13) (▲ 7)	(203) (▲ 4) (▲ 11)	(219) (16) (5)	(197) (▲ 22) (▲ 17)	(193) (▲ 4) (▲ 21)	(185) (▲ 8) (▲ 29)
東濃東部	1,228 前年比 H30年比	1,202 ▲ 26 ▲ 26	1,122 ▲ 80 ▲ 106	1,081 ▲ 41 ▲ 147	1,129 48 ▲ 99	1,191 62 ▲ 37	1,091 ▲ 100 ▲ 137	1,063 ▲ 28 ▲ 165	1,109 46 ▲ 119	1,027 ▲ 82 ▲ 201
東濃地区	3,091 前年比 H30年比	3,021 ▲ 70 ▲ 70	2,954 ▲ 67 ▲ 137	2,786 ▲ 168 ▲ 305	2,863 77 ▲ 228	2,985 122 ▲ 106	2,791 ▲ 194 ▲ 300	2,725 ▲ 66 ▲ 366	2,772 47 ▲ 319	2,721 ▲ 51 ▲ 370

<飛驒地区>

平成30年5月1日 現在 現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H30.4 高1	H31.4 中3	H32.4 中2	H33.4 中1	H34.4 小6	H35.4 小5	H36.4 小4	H37.4 小3	H38.4 小2	H39.4 小1
高山市	901 前年比 H30年比	863 ▲ 38 ▲ 38	795 ▲ 68 ▲ 106	795 0 ▲ 106	815 20 ▲ 86	800 ▲ 15 ▲ 101	818 18 ▲ 83	789 ▲ 29 ▲ 112	762 ▲ 27 ▲ 139	750 ▲ 12 ▲ 151
飛驒市	228 前年比 H30年比	244 16 16	196 ▲ 48 ▲ 32	192 ▲ 4 ▲ 36	180 ▲ 12 ▲ 48	181 1 ▲ 47	205 24 ▲ 23	173 ▲ 32 ▲ 55	161 ▲ 12 ▲ 67	184 23 ▲ 44
旧神岡町 (内数)	(51) 前年比 H30年比	(59) (8) (8)	(54) (▲ 5) (3)	(57) (3) (6)	(46) (▲ 11) (▲ 5)	(44) (▲ 2) (▲ 7)	(60) (16) (9)	(41) (▲ 19) (▲ 10)	(45) (4) (▲ 6)	(44) (▲ 1) (▲ 7)
下呂市	314 前年比 H30年比	254 ▲ 60 ▲ 60	276 22 ▲ 38	262 ▲ 14 ▲ 52	230 ▲ 32 ▲ 84	257 27 ▲ 57	286 29 ▲ 28	269 ▲ 17 ▲ 45	243 ▲ 26 ▲ 71	247 4 ▲ 67
大野郡	23 前年比 H30年比	12 ▲ 11 ▲ 11	12 0 ▲ 11	16 4 ▲ 7	17 1 ▲ 6	10 ▲ 7 ▲ 13	9 ▲ 1 ▲ 14	15 6 ▲ 8	11 ▲ 4 ▲ 12	14 3 ▲ 9
飛驒地区	1,466 前年比 H30年比	1,373 ▲ 93 ▲ 93	1,279 ▲ 94 ▲ 187	1,265 ▲ 14 ▲ 201	1,242 ▲ 23 ▲ 224	1,248 6 ▲ 218	1,318 70 ▲ 148	1,246 ▲ 72 ▲ 220	1,177 ▲ 69 ▲ 289	1,195 18 ▲ 271

中学生とその保護者のみなさんへ

岐阜県の県立高校は
平成31年度入学生から13校で

学科改編等

を行います



平成30年6月
岐阜県教育委員会

各校の学科改編等の内容

岐阜北 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能にします。
- ✓ 高大連携や国際交流事業を活用したり、ゼミ形式の選択講座を開講したりして学力を多面的・総合的に評価する新しい大学入試制度にも対応します。

羽島北 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ 生徒の進路志望や適性に即した学びを可能にします。
- ✓ 文系、理系の進学に対応した科目に加えて、看護・保育系、芸術・体育系の進路志望にも対応した多様な選択科目群を設定して、少人数の授業を提供します。

山 県 高校

普通科ビジネスコースの募集を停止します。
普通科に単位制を導入します。

- ✓ 出願段階でコース選択するのではなく、普通科において進路志望に応じた類型を2年次から選択します。
- ✓ 普通科にビジネスコースでの学びを継承した商業系その他、普通文系、普通理系、工業系、福祉系などの類型を設置します。

揖 斐 高校

普通科ビジネスコースの募集を停止します。
学年制の普通科、生活環境科を設置する高校になります。

- ✓ 出願段階でコース選択するのではなく、普通科において進路志望に応じた類型を2年生から選択します。
- ✓ 普通科にビジネスコースでの学びを継承したビジネス類型その他、進学類型や地元企業と連携したデュアル類型などを設置します。

大垣南 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ 生徒の進路志望や適性に即した学びを可能にします。
- ✓ 国公立大学や私立大学への進学に加えて、看護や芸術系への進学にも対応した多様な選択科目を用意し、少人数編成によるきめ細かな授業を提供します。

大垣西 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ 生徒の進路志望や適性に即した学びを可能にします。
- ✓ 国公立大学や私立大学だけでなく、体育系や芸術系への進路志望にも対応した少人数編成によるきめ細かな授業を提供します。

郡上北 高校

普通科ビジネスコースの募集を停止します。
普通科に単位制を導入します。

- ✓ 出願段階でコース選択するのではなく、普通科において進路志望に応じた類型を選択します。
- ✓ 普通科にビジネスコースでの学びを継承した観光・ビジネス系の他、進学系、地元企業や施設と連携した地域産業系、福祉系の類型を設置します。

郡 上 高校

総合学科の募集を停止します。
農業に関する学科を3学科に再編します。
普通科と農業科に単位制を導入します。

- ✓ 農業に関する学科を3学科(園芸科学科、食品科学科、森林環境科学科)に再編、まとめて総合農業学科群による募集として、2年次より学科を選択します。
- ✓ 普通科に総合学科での学習を継承した複数の類型を2年次から設置して、多様な学びに対応できる選択科目を提供します。

関 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能にします。
- ✓ 2年次の文系、理系に加えて、3年次にはさらに細分化した様々な類型を設置して、個々のより高い進学目標に対応します。

恵那南 高校

総合学科の系列を変更します。

- ✓ 既存の5系列を、文理進学系列、情報デザイン系列、ビジネスと観光系列、ライフサポート系列に変更して、学習内容に沿った系列名称にします。

益田清風 高校

商業に関する学科を1学科に再編します。
普通科と商業科に単位制を導入します。
総合学科の系列を変更します。

- ✓ 商業に関する学科を1学科（ビジネス情報科）に再編して、情報、会計、マーケティングに関する系列を2年次より選択して学習します。
- ✓ 総合学科における既存の3系列を、観光文化系列、福祉系列、保育系列、食文化系列として、卒業後の進路が明確な系列名称にします。

斐太 高校

普通科に単位制を導入します。

- ✓ より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能にします。
- ✓ 国公立大学への進学に対応した科目の他、飛騨地域にない芸術系大学に対応した科目や地域課題解決型学習に関連した科目を設置します。

吉城 高校

普通科と理数科に単位制を導入します。

- ✓ 普通科において、進学類型の他、総合的な類型を設置して、看護、福祉、観光、地域政策など進路志望や適性に即した学びを可能にします。
- ✓ 理数科はより高い進学目標や文系大学進学にも対応した授業展開や探究的な学びを可能にします。

※参考 学科改編等の内容別分類

改編内容	実 施 校
学科または コースの 募集停止	山県／揖斐／郡上北（普通科ビジネスコース）
	郡上（総合学科）
単位制を 導入	岐阜北／羽島北／山県／大垣南／大垣西／郡上北／郡上（普・農）／関 益田清風（普・商）／斐太／吉城（普・理数）
学科改編	郡上（農業に関する既存の2学科を3学科に再編し、学科群として募集）
	益田清風（商業に関する既存の2学科を1学科に再編）
総合学科の 系列変更	恵那南／益田清風



このリーフレットの内容に関するお問い合わせは下記まで
岐阜県教育委員会事務局 教育総務課 教育企画係
TEL: 058-272-8729 E-mail: c17765@pref.gifu.lg.jp



個性が輝く
岐阜県の
県立高校
で学ぼう



岐阜県立高等学校ガイド

岐阜県教育委員会

個性が輝く岐阜県の県立高校

—「県立高校の特色づくりの推進（H30年度）」と「入学や学びの仕組みの変更」の紹介—

※各高校の具体的な取組に関しては、各高校のHP等でご確認ください。 ※H31年度以降の事業名や内容及び該当校については、変更の可能性があります。



スーパーグローバルハイスクール(県SGH)★

グローバルな視点から社会的課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材の育成を目指します。各高校では、大学や企業等と連携した授業や、外国人講師によるコミュニケーション講座、地域の課題解決を目指す地域活性化プログラム、海外におけるフィールドワークなどを行っています。

該当校 岐阜商業、大垣北(国指定)、関、多治見北、斐太



理数教育フラッグシップハイスクール(県SSH)★

新学習指導要領において求められる、主体的に課題を発見し、探究を通してその解決を図ることができる人材の育成を目指します。理数科のある高校を中心に、各高校では、『課題研究』などの探究的な学習や、研究内容を分かりやすくプレゼンテーションする能力の育成などを行っています。

該当校 岐阜、岐阜山、岐阜農林、大垣東、恵那(国指定)、吉城



スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)★

社会の変化や産業の動向に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を目指します。各高校では、グローバル基準で環境に配慮した農産物ブランドの開発や、航空宇宙産業やIoT化する情報通信産業の最先端技術を専門技術者から直接学ぶ授業などを行っています。

該当校 岐阜農林(国指定)、岐阜工業(国指定)



★岐阜県では上記スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールに指定された高校の生徒の皆さんが、一堂に会してアイデアを出し合い、協働して社会的課題を解決するスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールセッション(SSS)を定期的に開催しています。

進学指導重点校

新学習指導要領や大学入試制度改革を先取りし、大学入試対策を積極的に行うことで、学力向上とそれに伴う大学合格実績の向上を目指します。各高校では、大学との研究交流や専門家の講演・講義による知的好奇心の発掘、学習支援員の配置や自習スペースの確保による学習環境の整備などを行っています。

該当校 岐阜北、加納、本巣松陽、大垣南、加茂、可児



少人数コミュニケーション講座

コミュニケーション能力や対人関係の構築力を身に付けたい生徒の皆さんに対して、学校ぐるみでの支援を目指します。各高校では、個別の指導によって、他の生徒と適切に関わるためのルールを身に付けたり、自分の想いを積極的に表現する力を高めたりするための支援を行ったりしています。

該当校 不破、東濃、華陽フロンティア(通)

専門高校活性化に向けた総合戦略事業

専門高校のうち、県の各地域の特色(地域産業、特産物、観光等)を生かした教育の実践研究を通して、専門性の向上を目指します。各高校では、地域を代表する産業の現場での就業体験、ファッション等オリジナル商品の開発、地域観光資源の掘り起こしと発信、農産物の高品質・ブランド化の研究などを行っています。

該当校 岐南工業、大垣桜、土岐商業、飛騨高山(農)

専門高校生国際化推進事業

専門高校のうち、日本の伝統文化の理解や海外における各産業や流通の実態を知る調査研究を通して、専門性の更なるグローバル化を目指します。各高校では、県内企業の現地法人における海外インターンシップや海外市場での販売研修、海外における農産物の生産や流通販売の現地調査などを行っています。

該当校 加茂農林、東濃実業(商)、多治見工業、瑞浪(生活)

演劇等を通じた高校生のコミュニケーション能力の育成

演劇等の表現活動を通して、生徒の皆さんのコミュニケーション能力や自己表現力の向上を目指します。各高校では、プロの俳優や演出家等を講師として招へいし、演劇表現のワークショップなどを行っています。

該当校 山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南



地域連携による活力ある高校づくり

高校と地域の市町や企業等とが一体となって、活力ある高校づくりと地域で中心となって活躍する人材育成を目指します。各高校では、デュアルシステムによる企業実習や、地元企業と市との連携により商品の製造から企画・販売まで行う実習、地元小中学校との協働によるボランティア活動などを行っています。

該当校 山県、揖斐、池田、不破、海津明誠、郡上北、関有知、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、恵那農業、坂下、中津商業、中津川工業、高山工業、吉城、飛騨神岡

※このうち、以下の10校は、

地域と共にある高校づくりを考える学校運営協議会を設置し「コミュニティ・スクール」に指定しています。

該当校 揖斐、不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、飛騨神岡



単位制高校

学年によって決められた科目を学ぶのではなく、多様な選択肢の中から、自分の進路志望に応じたコースや科目を選択して学べる高校です。以下に示す一部の普通科、専門学科の他、すべての総合学科や定時制高校が該当します。各高校では、進路目標に対応した少人数による授業展開を行ったり、卒業後の学びにも直結するような探究的な学びを行ったりしています。

該当校 岐阜、岐阜北、羽島北、各務原西、本巣松陽、山県、大垣南、大垣西、不破、郡上北、郡上(普/農)、関、東濃、多治見、中津、益田清風(普/商)、斐太、吉城(普/理数)

県外からの募集

特色ある教育内容や部活動を実践している高校のうち、以下に示す高校では、県外からも意欲の高い生徒の皆さんを受け入れることで、生徒同士が切磋琢磨できるなど、教育環境の高まりを目指します。各高校では、指定された分野において日々努力を重ね、世界や全国の強豪と競ったり、活動成果を披露し合ったりしています。

該当校(分野) 加納(音楽)、不破(スポーツチャンバラ)、海津明誠(ヨット)、関有知(ライフル射撃)、八百津(ボート、カヌー)、東濃(ロボコン)、多治見工業(セラミック)、恵那農業(園芸)、坂下(福祉)、高山工業(建築インテリア)、飛騨神岡(ロボット)



高等学校等就学支援金

国の就学支援金によって、公立全日制の場合、条件によっては最大年間118,800円が助成されます。

高校生等奨学給付金(返済は不要)

教科書学用品等の授業料以外の教育費の負担を軽減するため、非課税世帯の生徒に対し、県から奨学給付金が支給されます。条件によっては、最大年間129,700円が助成されます。

(支給条件)

●保護者等が岐阜県内に在住していること ●高等学校等に在学していること 等

	生活保護受給世帯	非課税世帯(第1子)	非課税世帯(第2子以降)
通信制以外(公立高校)	32,300円	80,800円	129,700円
通信制(公立高校)		36,500円	

※非課税世帯(第2子以降)とは、当該高校生以外に、15歳(中学生を除く)以上23歳未満の扶養されている兄弟姉妹がいる世帯の場合をいいます。

この他、岐阜県には様々な奨学金制度(貸付型・申請条件有)があります。

- ◆岐阜県選奨生奨学金(最大月額40,000円)
- ◆岐阜県高等学校奨学金(最大月額28,000円)
- ◆岐阜県子育て支援奨学金(最大月額28,000円)

これら奨学金に関する問合せ先

岐阜県教育委員会 教育財務課 管理経理係
TEL058-272-8734(直通)



このリーフレットの内容に関する
お問い合わせはこちらまで

岐阜県教育委員会事務局 教育総務課 教育企画係
TEL:058-272-8729(直通) E-mail:c17765@pref.gifu.lg.jp

様々な
奨学金制度を
紹介します！

岐阜県の県立高校一覧

高校名		H31設置大学科	スーパー グローバル	理数教育 フロンティア	スーパー プロフェッ ショナル	進学指導 重点校	少人数 コミュニ ケーション	専門高校 総合戦略	専門高校 国際化推進	連携型ICT コミュニ ケーション	地域連携活力 ICTコミュニ ティ スクール	単位制 (導入年)	学科改編 (実施年)	学科群 募集	県外募集 実施校	の指定 事業
岐阜	普			○								(H30)				A
岐阜北	普					○						○				B
長良	普															A
岐山	普・理			○												
加納	普・音・美					○									○	
羽島北	普											○				D
岐阜総合	総															
岐阜城北	生・総															
岐阜商業	商・(定)	○											(H30)			
岐阜工業	工							○								
各務原	普												(H30)			
各務原西	普											(H8)				A
岐阜各務野	商・情・福															
本巣松陽	普					○						(H16)				
岐阜農林	農			○	★											
山県	普									○	○	○	○			
羽島	普									○						
岐阜工業	工・(定)				★								(H30)	(H30)		
揖斐	普・生									○	○		○			E★
池田	普		★								○					
大垣北	普					○						○				
大垣南	普			○												
大垣東	普・理			○								○				
大垣西	普											○				
大垣養老	農・総															C
大垣商業	商・情・(定)															C
大垣工業	工・(定)															C
大垣桜	生・福							○								CE★
不破	普						○			○	○	(H17)			○	
海津明誠	普・商・生										○				○	F
郡上北	普										○	○	○			
郡上	普・農										○	○	○			
武義	普・商															G
関有知	普・生										○				○	
関	普	○										○				
加茂	普・理・(定)					○										
加茂農林	農								○							
八百津	普										○				○	
東濃	普						○			○	○	(H16)			○	
東濃実業	商・生								○							
可児	普					○										
可児工業	工															E★
多治見	普											(H30)	(H30)			A
多治見北	普	○														
多治見工業	工								○						○	
瑞浪	普・生								○		○					
土岐紅陵	総										○					
土岐商業	商							○								
恵那	普・理			★												
恵那南	総									○	○					
恵那農業	農										○				○	
中津	普・(定)											(H19)				B
坂下	普・生・福										○				○	
中津商業	商										○					
中津川工業	工										○					
益田清風	普・商・総											○	○			
斐太	普	○										○				
飛騨高山	普・音・生・農・(定・通)							○								
高山工業	工										○				○	
古城	普・理			○							○	○				
飛騨神岡	総										○				○	
華陽フロンティア (ⅠⅡⅢ部定・通)							○									
東濃フロンティア (ⅠⅡⅢ部定)																

※H31設置大学科の略称 普:普通 理:理数 音:音楽 美:美術 農:農業 工:工業 商:商業 生:生活産業(福祉を除く) 情:情報 福:福祉 総:総合学科

※表中の★は国(文部科学省)による指定校

※学科改編、学科群ごとの募集はH30年度以降に行われた該当校のみ記載

※その他の指定事業 A:次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発事業 B:英語教育イノベーション戦略事業 C:専門高校生地域連携推進事業 D:道徳教育地域支援事業 E:学力向上実践研究推進事業 F:基礎学力定着のための学習改善事業 G:人権教育協議会研究協力校

岐阜県の県立高校では

県外から
生徒を募集します。

建築インテリア

高山工業高校

ロボット

飛騨神岡高校

ライフル射撃

関有知高校

ロボコン

東濃高校

スポーツ
チャンバラ

不破高校

福祉

坂下高校

ヨット

海津明誠高校

音楽

加納高校

園芸

恵那農業高校

ボート、カヌー

八百津高校

セラミック

多治見工業高校

岐阜県教育委員会

気になる県立高校のWebページを見てみよう

音楽が専門に学べる！

岐阜駅に最も近い地区有数の進学校

かのう

加納高校

募集学科：音楽科



陶磁器のまちでセラミックを学ぼう！

名古屋からのアクセス抜群

たじみこうぎょう

多治見工業高校

募集学科：セラミック科



スポーツチャンバラで世界に挑戦！

少人数授業で基礎から学べる学校

ふわ

不破高校

募集学科：普通科

募集部活：スポーツチャンバラ



世界のラン展で最優秀賞受賞！

花の栽培とフラワーデザインが学べる

えなのうぎょう

恵那農業高校

募集学科：

園芸デザイン科、園芸科学科



ヨット競技で全国制覇へ！

愛知、三重に隣接する学校

かいづめいせい

海津明誠高校

募集学科：全学科

募集部活：ヨット



高い介護福祉士国家試験合格率！

最新設備で充実した学び

さかした

坂下高校

募集学科：福祉科



ライフル射撃で全国制覇へ！

刃物で有名な関市の学校

せきうち

関有知高校

募集学科：全学科

募集部活：ライフル射撃



飛騨の匠の技と心を継承！

歴史と文化に育まれた高山で

たかやまこうぎょう

高山工業高校

募集学科：

建築インテリア科



ボートやカヌーで全国制覇へ！

杉原千畝ゆかりの地にある学校

やおつ

八百津高校

募集学科：普通科

募集部活：ボート、カヌー



ロボットで世界大会へ！

神岡といえばスーパーカミオカンデ

ひだかみおか

飛騨神岡高校

募集学科：総合学科

募集部活：ロボット



ロボコン競技で世界大会へ！

自分自身で学ぶ科目を選べる単位制

とうのう

東濃高校

募集学科：普通科

募集部活：ロボコン



このリーフレットの内容に関するお問い合わせ

岐阜県教育委員会事務局

教育総務課 教育企画係

TEL: 058-272-8729

E-mail: c17765@pref.gifu.lg.jp

岐阜県公立高等学校入学者選抜情報 →



※一家転住であれば、県内のすべての県立高校を受検できます。